

Collaboration 移行ガイド

操作書

3020-3-H44-60

■ 対象製品

P-2646-6364 Groupmax Collaboration Portal 07-91 (適用 OS : Windows Server 2012^{*}, Windows Server 2012 R2^{*}, Windows Server 2008 R2^{*}, Windows Server 2008 x64^{*}, Windows Server 2008 x86)

P-2746-E364 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91 (適用 OS : Windows Server 2012^{*}, Windows Server 2012 R2^{*}, Windows Server 2008 R2^{*}, Windows Server 2008 x64^{*}, Windows Server 2008 x86)

P-2746-E464 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-91 (適用 OS : Windows Server 2012^{*}, Windows Server 2012 R2^{*}, Windows Server 2008 R2^{*}, Windows Server 2008 x64^{*}, Windows Server 2008 x86)

注※ WOW64 環境だけで使用できます。

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

Borland のブランド名および製品名はすべて、米国 Borland Software Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

VisiBroker は、英国、米国、その他の国における Micro Focus (IP) Limited の商標または登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	製品名
Windows 7	Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise 日本語版 (32 ビット版)
	Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise 日本語版 (64 ビット版)
	Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional 日本語版 (32 ビット版)
	Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional 日本語版 (64 ビット版)
	Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate 日本語版 (32 ビット版)
	Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate 日本語版 (64 ビット版)
Windows 8.1	Windows(R) 8.1 Enterprise 日本語版 (32 ビット版)
	Windows(R) 8.1 Enterprise 日本語版 (64 ビット版)
	Windows(R) 8.1 Pro 日本語版 (32 ビット版)
	Windows(R) 8.1 Pro 日本語版 (64 ビット版)

表記		製品名
Windows NT		Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network Operating System Version 3.51
		Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network Operating System Version4.0
		Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation Operating System Version 3.51
		Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation Operating System Version4.0
Windows Server 2008 x86	Windows Server 2008 Enterprise x86	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 32-bit 日本語版
	Windows Server 2008 Standard x86	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 32-bit 日本語版
Windows Server 2008 x64	Windows Server 2008 Enterprise x64	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 日本語版
	Windows Server 2008 Standard x64	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 日本語版
Windows Server 2008 R2	Windows Server 2008 R2 Enterprise	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise 日本語版
	Windows Server 2008 R2 Standard	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard 日本語版
Windows Server 2012		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter 日本語版
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard 日本語版
Windows Server 2012 R2		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter 日本語版
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard 日本語版
Windows Vista		Microsoft(R) Windows Vista(R) Business 日本語版 (32 ビット版)
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Business 日本語版 (64 ビット版)
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise 日本語版 (32 ビット版)
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise 日本語版 (64 ビット版)
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate 日本語版 (32 ビット版)
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate 日本語版 (64 ビット版)

このマニュアルでは、特に断りのない場合は、Windows Server 2008 x86、Windows Server 2008 x64、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Windows Vista、Windows 7 および Windows 8.1 を総称して Windows と表記しています。

■ 発行

2015 年 4 月 3020-3-H44-60

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2009, 2015, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-H44-60) Groupmax Collaboration Portal 07-91, Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91, Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-91

追加・変更内容	変更箇所
次の OS を対象製品の適用 OS に追加しました。 <ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2012 R2	-

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、Collaboration システムの移行手順について説明したものです。

対象とする製品は、次のとおりです。

- Groupmax Collaboration Portal
- Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing
- Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule

以降、オプション製品を除く五つの製品を総称して Collaboration Portal と表記する場合があります。

■ 対象読者

Collaboration を使ったシステムの移行を担当する方を対象としています。なお、次に示す項目を熟知していることを前提としています。

- 使用する OS (Operating System) および Web ブラウザの操作
- uCosminexus Application Server, uCosminexus Portal Framework, Groupmax, および HiRDB の基本的な知識

■ このマニュアルで使用している記号

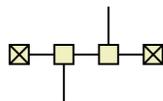
このマニュアルでは、次に示す記号を使用しています。

記号	意味
[]	メニュー、コマンド、ウィンドウ、ダイアログ、ポートレットの名称、ボタンおよびキーボードのキーを示します。
[]	ユーザが指定または選択する内容を示します。
< >	この記号で囲まれている項目が可変値であることを示します。

■ このマニュアルの図中で使用している記号

このマニュアルの図中で使用している記号を、次のように定義します。

- インターネット、イントラネット
- ネットワーク



目次

1	Collaboration システムの移行の概要	1
1.1	Collaboration システムの概要	2
1.1.1	Collaboration システムの構成	2
1.1.2	Collaboration の製品の種類	3
1.2	旧バージョンからの移行作業の概要	5
1.2.1	移行作業の流れ	5
1.2.2	移行作業の概要	8
2	前提となる環境の移行	13
2.1	作業項目と製品のバージョンとの対応 (前提となる環境の移行)	14
2.2	Collaboration システムの各サーバを構成する製品の移行	15
2.2.1	Groupmax サーバを構成する製品の移行	15
2.2.2	データベースサーバを構成する製品の移行	17
2.2.3	ファイル共有サーバを構成する製品の移行	17
2.2.4	アプリケーションサーバを構成する製品の移行	17
2.3	前提となる環境で共通の設定	21
2.3.1	ディレクトリサーバでの最上位組織の属性の削除	21
2.3.2	運用ディレクトリの設定	21
3	データベースサーバの移行	23
3.1	作業項目と製品のバージョンとの対応 (データベースサーバの移行)	24
3.2	RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更	26
3.2.1	Collaboration - Forum での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更	26
3.2.2	Collaboration - Bulletin board での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更	27
3.2.3	Collaboration - Mail での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更	27
3.3	データベースの移行	29
3.3.1	uCosminexus Portal Framework のデータベースの移行	29
3.3.2	Collaboration - Forum のデータベースの移行	31
3.3.3	Collaboration - Bulletin board のデータベースの移行	40
3.3.4	Collaboration - Mail のデータベースの移行	48
4	ファイル共有の移行	55
4.1	作業項目と製品のバージョンとの対応 (ファイル共有の移行)	56
4.2	Collaboration - File Sharing の移行	57

5	アプリケーションサーバの移行	63
5.1	旧バージョンの uCosminexus Portal Framework からの移行	64
5.2	uCosminexus Portal Framework の設定	66
5.3	ポートレットの設定の変更	68
5.4	ポータルプロジェクトの組み込み	73
5.5	Web サーバの設定	74
5.6	Web ブラウザでの表示確認	78

付録		79
付録 A	Collaboration のコンポーネントで使用できる共通の機能	80
付録 B	Collaboration の製品と uCosminexus Portal Framework のバージョンの対応	81
付録 C	このマニュアルの参考情報	82
付録 C.1	関連マニュアル	82
付録 C.2	このマニュアルでの表記	83
付録 C.3	英略語	89
付録 C.4	KB (キロバイト) などの単位表記について	89

索引		91
----	--	----

1

Collaboration システムの移行の概要

この章では、移行対象の Collaboration システムの概要、および Collaboration システムを移行する場合に実施する作業の概要について説明します。

1.1 Collaboration システムの概要

Collaboration システムは、Collaboration の各機能を持つアプリケーションサーバを中心に、各機能が動作する場合に必要な関連製品を持つディレクトリサーバ、データベースサーバなどのサーバで構成されています。また、Collaboration では、基盤となるシステムや導入目的に応じて、Collaboration の主な機能を組み合わせた製品（以降、Collaboration の製品）や、Collaboration のオプション機能を提供する製品（以降、Collaboration のオプション製品）を提供しています。

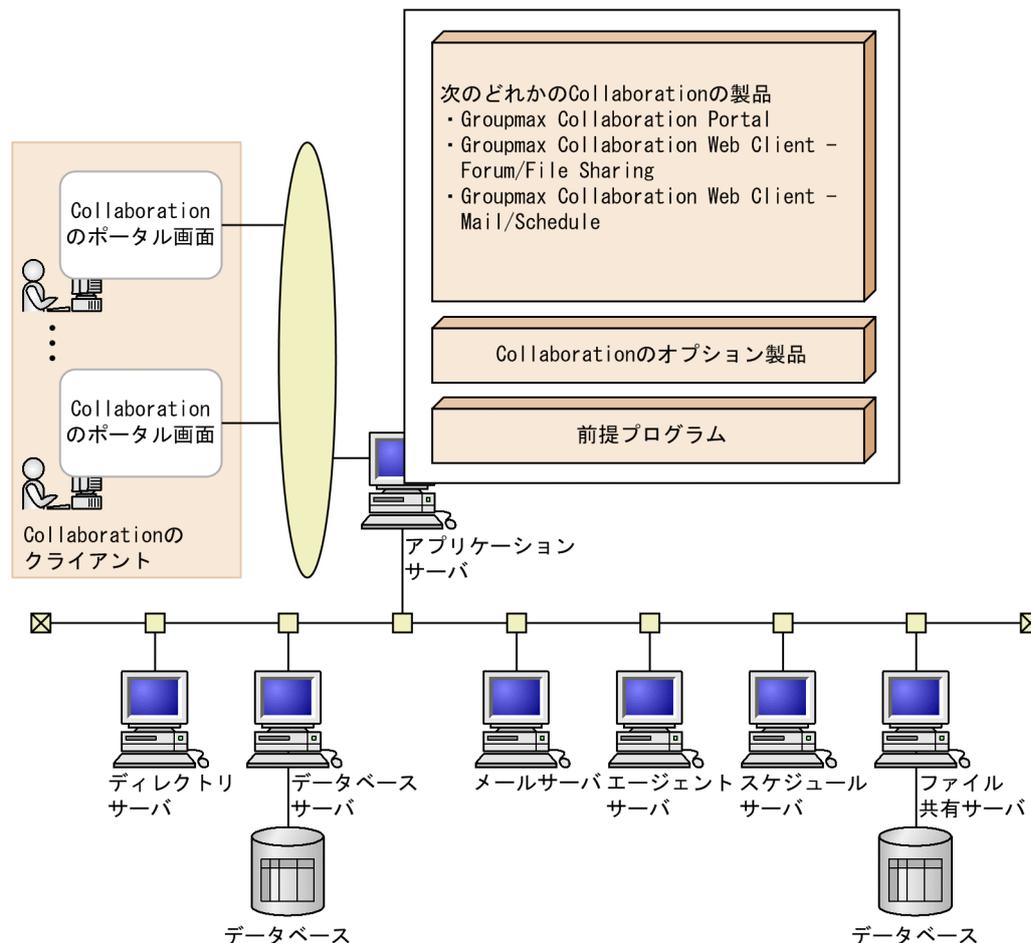
ここでは、Collaboration システムを移行するための前提知識として、Collaboration システムの構成、および Collaboration の製品について説明します。

1.1.1 Collaboration システムの構成

ここでは、このマニュアルで移行作業を説明する、Collaboration システムの構成について説明します。

Collaboration システムの構成例を次の図に示します。

図 1-1 Collaboration システムの構成例



この図に示すサーバ、および Collaboration のクライアントについては、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」の「Collaboration のシステム構成」を参照してください。

サーバごとの移行作業の参照先を次の表に示します。

表 1-1 サーバごとの移行作業の参照先

サーバの種類	移行作業の参照先
アプリケーションサーバ	<ul style="list-style-type: none"> 「2. 前提となる環境の移行」 「4. ファイル共有の移行」※1 「5. アプリケーションサーバの移行」 各コンポーネントのシステム管理者ガイドのマニュアル
ディレクトリサーバ	<ul style="list-style-type: none"> 「2. 前提となる環境の移行」
データベースサーバ	<ul style="list-style-type: none"> 「2. 前提となる環境の移行」 「3. データベースサーバの移行」 「4. ファイル共有の移行」※1 各コンポーネントのシステム管理者ガイドのマニュアル
メールサーバ※2	<ul style="list-style-type: none"> 「2. 前提となる環境の移行」 マニュアル「Collaboration - Mail システム管理者ガイド」
エージェントサーバ※2	<ul style="list-style-type: none"> 「2. 前提となる環境の移行」 マニュアル「Windows NT Groupmax Agent Version 5 システム管理者ガイド」
スケジュールサーバ※2	<ul style="list-style-type: none"> 「2. 前提となる環境の移行」 マニュアル「Collaboration - Schedule システム管理者ガイド」
ファイル共有サーバ	<ul style="list-style-type: none"> 「2. 前提となる環境の移行」 「4. ファイル共有の移行」 マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」

注※1

Collaboration のファイル共有機能を使用する場合に参照してください。

注※2

このマニュアルでは、Groupmax の Mail および Scheduler が利用できる環境を持つサーバを総称して、Groupmax サーバといいます。

1.1.2 Collaboration の製品の種類

ここでは、このマニュアルで移行作業を説明する、Collaboration の製品の種類とバージョン情報について説明します。

参考

Collaboration のオプション製品については、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」、またはオプション製品のマニュアルもしくはドキュメントを参照してください。

※ uCosminexus Collaboration の移行を行う場合はお問い合わせください。

旧バージョンの Collaboration の製品について説明します。各製品の詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」の「Collaboration の製品構成」を参照してください。なお、製品ごとの移行作業については、「1.2.1 移行作業の流れ」を参照してください。

旧バージョンの Groupmax Collaboration の製品を次の表に示します。

表 1-2 旧バージョンの Groupmax Collaboration の製品

分類	製品名	バージョンによる製品の提供有無			
		07-10 07-20	07-30～ 07-50*1	07-51	07-52～ 07-87*2
Groupmax Collaboration	Groupmax Collaboration Portal	○	○	○	○
	Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing	○	○	—	○
	Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule	—	○	○	○

(凡例)

- ：提供しています。
- ：該当しません。

注※1

07-30～07-50 とは、Groupmax Collaboration 07-30, 07-32, 07-35, 07-36 および 07-50 のことです。

注※2

07-52～07-87 とは、Groupmax Collaboration 07-52, 07-70, 07-71, 07-72, 07-82, 07-83, 07-84, 07-85, 07-86 および 07-87 のことです。

1.2 旧バージョンからの移行作業の概要

ここでは、旧バージョンの Groupmax Collaboration から Groupmax Collaboration 07-91 への移行作業の流れと、実施する移行作業の概要について説明します。

1.2.1 移行作業の流れ

「1.1.2 Collaboration の製品の種類」に示すように、Collaboration には複数の製品があります。これらの製品は、利用できる機能が異なるため、実施する移行作業も異なります。製品ごとに利用できる機能については、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」の「Collaboration の製品構成」を参照してください。また、Collaboration の各機能については、マニュアル「Collaboration ユーザーズガイド」、または各コンポーネントのマニュアルを参照してください。

ここでは、製品ごとに移行作業の流れを説明します。各作業の概要については、「1.2.2 移行作業の概要」を参照してください。

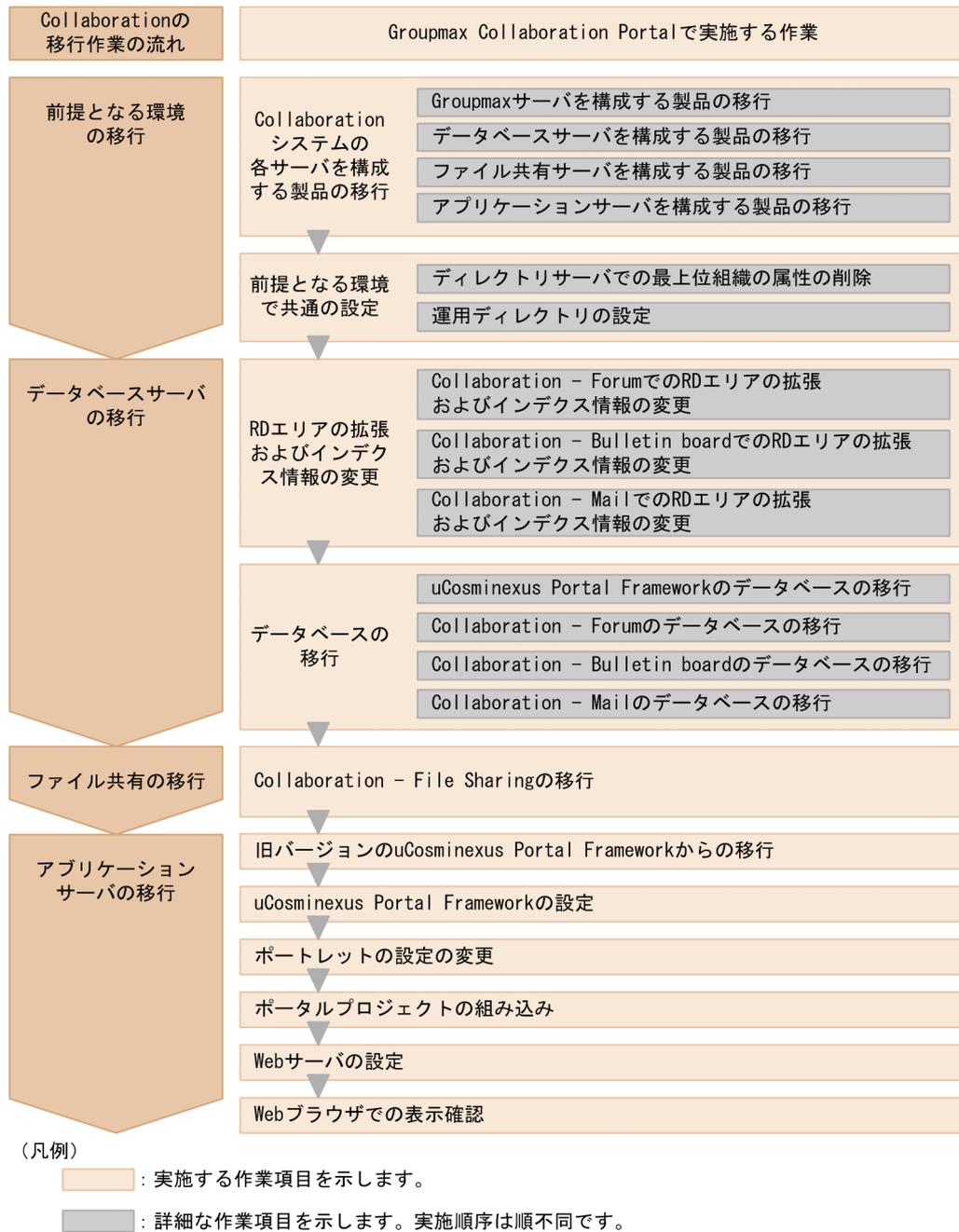
(1) Groupmax Collaboration Portal の移行作業の流れ

Groupmax Collaboration Portal では、次に示す Collaboration の機能が利用できます。

- 新着情報
- メール
- 電子会議室
- ファイル共有
- スケジュール
- ToDo
- ユーザ検索
- コミュニティ管理
- 電子掲示板
- リンク集

Groupmax Collaboration Portal を移行する場合の作業の流れを次の図に示します。

図 1-2 Groupmax Collaboration Portal を移行する場合の作業の流れ



(2) Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing の移行作業の流れ

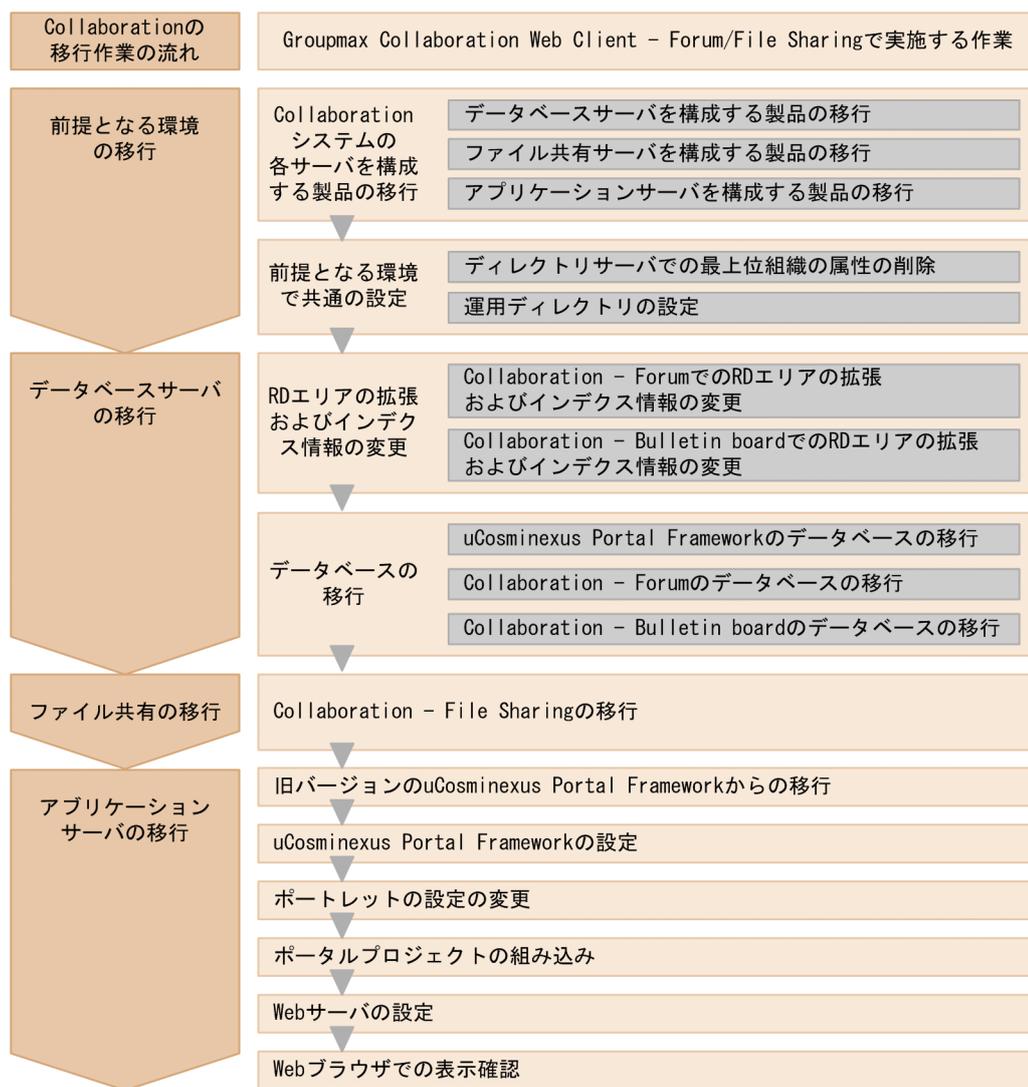
Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing では、次に示す Collaboration の機能が利用できます。

- 新着情報
- 電子会議室
- ファイル共有
- ユーザ検索

- コミュニティ管理
- 電子掲示板
- リンク集

Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing を移行する場合の作業の流れを次の図に示します。

図 1-3 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing を移行する場合の作業の流れ



(凡例)

□ : 実施する作業項目を示します。

■ : 詳細な作業項目を示します。実施順序は順不同です。

(3) Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule の移行作業の流れ

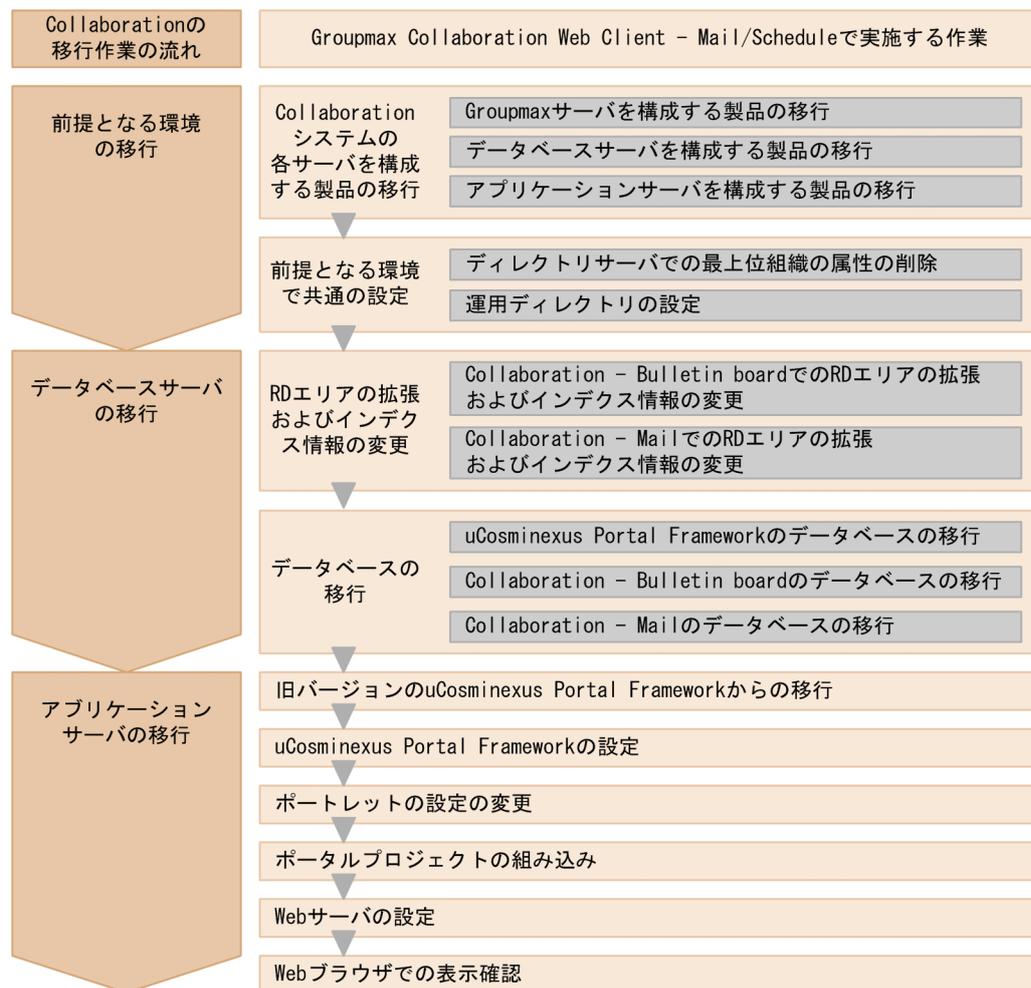
Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule では、次に示す Collaboration の機能が利用できます。

- 新着情報
- メール

- スケジュール
- ToDo
- ユーザ検索
- コミュニティ管理
- 電子掲示板
- リンク集

Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule を移行する場合の作業の流れを次の図に示します。

図 1-4 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule を移行する場合の作業の流れ



(凡例)

□ : 実施する作業項目を示します。

■ : 詳細な作業項目を示します。実施順序は順不同です。

1.2.2 移行作業の概要

ここでは、Collaboration システムを最新のバージョンに移行する場合に実施する作業の概要について説明します。移行元の Collaboration の製品のバージョンによっては、最新バージョンに移行する際に実施する作業が異なります。

製品のバージョンごとに実施する作業を次の表に示します。

表 1-3 製品のバージョンごとに実施する作業

作業項目	製品のバージョン ^{*1} による作業の要否			参照先
	07-82 以前 ^{*1}	07-83～ 07-85 ^{*2}	07-86～ 07-87 ^{*3}	
前提となる環境の移行	○	○	○	2 章
データベースサーバの移行	○	×	×	3 章
ファイル共有の移行	○	○	×	4 章
アプリケーションサーバの移行	○	○	○	5 章

(凡例)

- ：必要な作業です。
- ×：不要な作業です。

注※1

07-82 以前とは、Groupmax Collaboration 07-10, 07-20, 07-30, 07-32, 07-35, 07-36, 07-50, 07-51, 07-52, 07-70, 07-71, 07-72 および 07-82 のことです。

注※2

07-83～07-85 とは、Groupmax Collaboration 07-83, 07-84 および 07-85 のことです。

注※3

07-86～07-87 とは、Groupmax Collaboration 07-86 および 07-87 のことです。

各作業の概要を次に説明します。

(1) 前提となる環境の移行

Collaboration システムの前提となる環境を移行します。

(a) Collaboration システムの各サーバを構成する製品の移行

Collaboration システムを構成する各サーバに、Collaboration の前提となる製品の最新バージョンを上書きインストールします。

- Groupmax サーバを構成する製品の移行
Groupmax サーバで現在使用している製品のバージョンを確認して、必要に応じて最新バージョンへ移行します。移行方法については、「2.2.1 Groupmax サーバを構成する製品の移行」を参照してください。
- データベースサーバを構成する製品の移行
データベースサーバで現在使用している製品のバージョンを確認して、必要に応じて最新バージョンへ移行します。移行方法については、「2.2.2 データベースサーバを構成する製品の移行」を参照してください。
- ファイル共有サーバを構成する製品の移行
ファイル共有サーバで現在使用している製品のバージョンを確認して、必要に応じて最新バージョンへ移行します。移行方法については、「2.2.3 ファイル共有サーバを構成する製品の移行」を参照してください。

1 Collaboration システムの移行の概要

- アプリケーションサーバを構成する製品の移行
アプリケーションサーバで現在使用している製品のバージョンを確認して、必要に応じて最新バージョンへ移行します。移行方法については、「2.2.4 アプリケーションサーバを構成する製品の移行」を参照してください。

(b) 前提となる環境で共通の設定

前提となる環境で共通の次の設定を実施します。

- ディレクトリサーバでの最上位組織の属性の削除
ディレクトリサーバで、最上位組織の属性が指定されている場合は削除します。削除方法については、「2.3.1 ディレクトリサーバでの最上位組織の属性の削除」を参照してください。
- 運用ディレクトリの設定
Collaboration の運用ディレクトリに必要なディレクトリをコピーして、プロパティファイルを設定します。設定方法については、「2.3.2 運用ディレクトリの設定」を参照してください。

(2) データベースサーバの移行

Collaboration の各機能が使用するデータベースサーバを移行します。

(a) RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更

Collaboration の各機能が現在使用しているデータベースの RD エリアを拡張し、インデクス情報を変更します。

- Collaboration - Forum での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更
Collaboration - Forum が現在使用しているデータベースの RD エリアを拡張し、インデクス情報を変更します。拡張および変更方法については、「3.2.1 Collaboration - Forum での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更」を参照してください。
- Collaboration - Bulletin board での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更
Collaboration - Bulletin board が現在使用しているデータベースの RD エリアを拡張し、インデクス情報を変更します。拡張および変更方法については、「3.2.2 Collaboration - Bulletin board での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更」を参照してください。
- Collaboration - Mail での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更
Collaboration - Mail が現在使用しているデータベースの RD エリアを拡張し、インデクス情報を変更します。拡張および変更方法については、「3.2.3 Collaboration - Mail での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更」を参照してください。

(b) データベースの移行

Collaboration の各機能が現在使用しているデータベースを最新バージョンのデータベースへ移行します。

- uCosminexus Portal Framework のデータベースの移行
uCosminexus Portal Framework が現在使用しているデータベースを移行します。移行方法については、「3.3.1 uCosminexus Portal Framework のデータベースの移行」を参照してください。
- Collaboration - Forum のデータベースの移行
Collaboration - Forum が現在使用しているデータベースを移行します。移行方法については、「3.3.2 Collaboration - Forum のデータベースの移行」を参照してください。
- Collaboration - Bulletin board のデータベースの移行

Collaboration - Bulletin board が現在使用しているデータベースを移行します。移行方法については、「3.3.3 Collaboration - Bulletin board のデータベースの移行」を参照してください。

- Collaboration - Mail のデータベースの移行

Collaboration - Mail が現在使用しているデータベースを移行します。移行方法については、「3.3.4 Collaboration - Mail のデータベースの移行」を参照してください。

(3) ファイル共有の移行

Collaboration のファイル共有を移行します。

(a) Collaboration - File Sharing の移行

Collaboration のファイル共有機能を使用するサーバを移行します。移行対象となるサーバには、ファイル共有サーバ、ファイル共有クライアント（アプリケーションサーバ）、データベースサーバがあります。移行方法については、「4.2 Collaboration - File Sharing の移行」を参照してください。

(4) アプリケーションサーバの移行

アプリケーションサーバを移行します。アプリケーションサーバの基盤となる uCosminexus Portal Framework の移行や設定、および uCosminexus Application Server の移行や設定などを実施します。

(a) 旧バージョンの uCosminexus Portal Framework からの移行

旧バージョンの uCosminexus Portal Framework - Light から uCosminexus Portal Framework 09-00 に移行します。移行方法については、「5.1 旧バージョンの uCosminexus Portal Framework からの移行」を参照してください。

(b) uCosminexus Portal Framework の設定

移行後の uCosminexus Portal Framework で、ポートレットのデプロイ、マッピング情報の削除などを実施します。設定手順や設定方法については、「5.2 uCosminexus Portal Framework の設定」を参照してください。

(c) ポートレットの設定の変更

各ポートレットの設定を変更します。設定の変更方法については、「5.3 ポートレットの設定の変更」を参照してください。

(d) ポータルプロジェクトの組み込み

ポータルプロジェクトを J2EE サーバに組み込みます。組み込み方法については、「5.4 ポータルプロジェクトの組み込み」を参照してください。

(e) Web サーバの設定

Web サーバで、静的コンテンツを Web サーバから直接取得するための設定や、アクセス数の増加に対応するための設定などを実施します。設定方法については、「5.5 Web サーバの設定」を参照してください。

(f) Web ブラウザでの表示確認

Web ブラウザで URL を指定して、Collaboration のポータル画面が表示できることを確認します。確認方法については、「5.6 Web ブラウザでの表示確認」を参照してください。

2

前提となる環境の移行

この章では、Collaboration システムの各サーバを構成する製品を Collaboration の前提となる製品の最新バージョンへ移行する手順と、前提となる環境に必要な設定について説明します。

2.1 作業項目と製品のバージョンとの対応 (前提となる環境の移行)

ここでは、この章で説明している、Collaboration システムの前提となる環境を移行する場合に実施する作業が、どの製品のどのバージョンで実施する作業であるかについて説明します。

作業項目と製品のバージョンとの対応を次の表に示します。

表 2-1 作業項目と製品のバージョンとの対応 (前提となる環境の移行)

作業項目	製品のバージョン※1 による作業の要否		参照先
	07-87 以前※1		
Collaboration システムの各サーバを構成する製品の移行	Groupmax サーバを構成する製品の移行※2	○	2.2.1
	データベースサーバを構成する製品の移行	○	2.2.2
	ファイル共有サーバを構成する製品の移行※3	○	2.2.3
	アプリケーションサーバを構成する製品の移行	○	2.2.4
前提となる環境で共通の設定	ディレクトリサーバでの最上位組織の属性の削除	○	2.3.1
	アプリケーションサーバでの運用ディレクトリの設定	○	2.3.2

(凡例)

○：必要な作業です。

注※1

07-87 以前とは、Groupmax Collaboration 07-10, 07-20, 07-30, 07-32, 07-35, 07-36, 07-50, 07-51, 07-52, 07-70, 07-71, 07-72, 07-82, 07-83, 07-84, 07-85, 07-86 および 07-87 のことです。

注※2

次の製品を使用している場合、Groupmax サーバに関する移行作業は不要です。

- Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing

注※3

次の製品を使用している場合、ファイル共有サーバに関する移行作業は不要です。

- Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule

2.2 Collaboration システムの各サーバを構成する製品の移行

Collaboration システムの環境で、前提となるサーバを構成する製品を Collaboration の最新バージョンへ移行します。この作業は、次に示すバージョンの製品を移行する場合に実施します。

対象製品

- Groupmax Collaboration 07-10 以降

ここでは、次のサーバを構成する製品の移行について説明します。

- Groupmax サーバ※1
- データベースサーバ
- ファイル共有サーバ※2
- アプリケーションサーバ
- ディレクトリサーバ

注※1

このマニュアルでは、Groupmax の Mail および Scheduler が利用できる環境を持つサーバを Groupmax サーバといいます。

次の製品を使用している場合、Groupmax サーバを移行する必要はありません。

- Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing

注※2

次の製品を使用している場合、ファイル共有サーバを移行する必要はありません。

- Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule

2.2.1 Groupmax サーバを構成する製品の移行

Groupmax サーバを構成する製品は、Groupmax Groupware Server および Groupmax Agent - Application Version 6 に含まれています。

Groupmax サーバを構成する製品を次に示します。

- Groupmax サーバを構成する製品 (Groupmax Groupware Server の場合)
 - Groupmax Agent Server Version 5
 - Groupmax Object Server Version 6
 - Groupmax Address Server Version 7
 - Groupmax Mail Server Version 7
 - Groupmax Mail - SMTP Version 7
 - Groupmax Scheduler Server Version 7
 - Groupmax Facilities Manager Version 7
 - Groupmax Scheduler_Facilities 管理ツール Version 7 ※

注※

Groupmax Scheduler Server の DB モードで運用する場合は、不要なプログラムです。

Groupmax Groupware Server に含まれている製品と、現在使用している製品のバージョンを確認して、バージョンが異なる場合は上書きインストールします。Groupmax Groupware Server のバージョンは、Collaboration のリリースノートを参照して確認してください。各製品の詳細は、次の表に示すマニュアルを参照してください。

表 2-2 各製品の参照先マニュアル (Groupmax Groupware Server の場合)

製品名	参照先マニュアル
Groupmax Agent Server Version 5	Windows NT Groupmax Agent Version 5 システム管理者ガイド
Groupmax Object Server Version 6	Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド
Groupmax Address Server Version 7	Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編
	Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド ユティリティ編
Groupmax Mail Server Version 7	Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編
	Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド ユティリティ編
Groupmax Mail - SMTP Version 7	Groupmax Mail - SMTP Version 7 運用ガイド
Groupmax Scheduler Server Version 7	Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7 システム管理者ガイド
Groupmax Facilities Manager Version 7	
Groupmax Scheduler_Facilities 管理ツール Version 7	

- Groupmax サーバを構成する製品 (Groupmax Agent - Application Version 6 の場合)
 - Groupmax Agent - Mail Function Version 6
 - Groupmax Agent - Mail Server Version 6

Groupmax Agent - Application Version 6 06-54 に含まれている製品と、現在使用している製品のバージョンを確認して、バージョンが異なる場合は上書きインストールします。

各製品の詳細は、次の表に示すマニュアルを参照してください。

表 2-3 各製品の参照先マニュアル (Groupmax Agent - Application Version 6 の場合)

製品名	参照先マニュアル
Groupmax Agent - Mail Function Version 6	Groupmax Agent Version 5 エージェント作成ガイド
Groupmax Agent - Mail Server Version 6	

！ 注意事項

Groupmax Scheduler Server の運用モードに DB モードを指定する場合は、スケジュールサーバ用のデータベースサーバが、Collaboration の各コンポーネントが使用する共通のデータベースサーバとは別に必要になります。このとき、Collaboration の製品は次のどれかを使用してください。

- Groupmax Collaboration Portal 07-71 以降
- Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-71 以降

スケジューラサーバを DB モードで運用する場合に必要な製品については、マニュアル「Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7 システム管理者ガイド」を参照してください。また、Groupmax Scheduler Server と Groupmax Facilities Manager が DB モードをサポートしているバージョンかどうか、Collaboration のリリースノートを参照して確認してください。

2.2.2 データベースサーバを構成する製品の移行

データベースサーバを構成する製品は、Groupmax Collaboration - Data Server に含まれています。データベースサーバを構成する製品を次に示します。

- HiRDB/Single Server Version 9
- HiRDB Text Search Plug-in Version 9
- HiRDB Text Search Plug-in Index Generator
- Document Filter for Text Search Version 3

各製品のインストール方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

2.2.3 ファイル共有サーバを構成する製品の移行

ファイル共有サーバを構成する製品は、Groupmax Collaboration - File Server に含まれています。ファイル共有サーバを構成する製品を次に示します。

- Collaboration - File Sharing Server
- TPBroker
- DABroker Library
- HiRDB/Run Time Version 9*

注※

ファイル共有サーバとデータベースサーバを、別のマシンで運用する場合に必要です。

製品のインストール方法については、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」を参照してください。

参考

Collaboration - File Sharing 01-30 以降の製品へ移行する場合に、[ファイル共有] ポートレットで日本語および英語だけを使用する運用にしたいときは、文書空間の文字コード種別に Shift-JIS を設定する必要があります。日本語および英語以外の言語も使用する運用にしたい場合は、文書空間の文字コード種別に UTF-8 を設定する必要があります。

ファイル共有の移行では、移行後に設定する文字空間の文字コード種別によって、次のどちらかの移行手順を実行します。

- 文書空間の文字コード種別に Shift-JIS を設定する場合の移行手順
 - 文書空間の文字コード種別に UTF-8 を設定する場合の移行手順
-

2.2.4 アプリケーションサーバを構成する製品の移行

アプリケーションサーバを構成する製品は、Groupmax Collaboration - Server および Collaboration の製品*に含まれています。アプリケーションサーバを構成する製品を次に示します。

2 前提となる環境の移行

- uCosminexus Application Server
- uCosminexus Portal Framework
- Collaboration の製品※
- HiRDB/Run Time Version 9
- uCosminexus Interschema - Parsing Kit

注※

Collaboration の製品を次に示します。

- Groupmax Collaboration Portal
- Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing
- Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule

製品をインストールする前に、次の手順で Collaboration などを停止してください。

手順

1. Hitachi Web Server を停止します。
2. アプリケーションサーバを停止します。
3. ファイル転送サービス [Collaboration - File Sharing FTP Service] を停止します。

Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule がインストールされている場合、この作業は不要です。

製品ごとに、インストール方法について説明します。

(1) uCosminexus Application Server

旧バージョンの uCosminexus Application Server Standard から uCosminexus Application Server09-50 に移行します。

インストールおよび移行の方法については、マニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ 機能解説 保守／移行編」の「旧バージョンのアプリケーションサーバからの移行」を参照してください。

参考

uCosminexus Application Server は、Groupmax Collaboration - Server に含まれています。

(2) uCosminexus Portal Framework

旧バージョンの uCosminexus Portal Framework - Light から uCosminexus Portal Framework 09-00 に移行します。uCosminexus Portal Framework は、Collaboration の製品に含まれています。

なお、Collaboration の製品のバージョンと、uCosminexus Portal Framework のバージョンの対応については、「付録 B Collaboration の製品と uCosminexus Portal Framework のバージョンの対応」を参照してください。

● uCosminexus Portal Framework - Light 07-60 以降から移行する場合

旧バージョンの uCosminexus Portal Framework - Light をアンインストールしてから、uCosminexus Portal Framework 09-00 をインストールします。

※ uCosminexus Portal Framework - Light 07-50 以前からバージョンアップする場合はお問い合わせください。

手順

1. 移行前環境の、次のディレクトリのバックアップを取得します。

- ポータルプロジェクト
- 設定ファイル格納ディレクトリ
デフォルトは、<uCosminexus Portal Framework - Light インストールディレクトリ>%conf です。
- ポートレット配置情報ファイルディレクトリ
デフォルトは、<uCosminexus Portal Framework - Light インストールディレクトリ>%psml です。
- Portal Manager 設定ファイルディレクトリ
<uCosminexus Portal Framework - Light インストールディレクトリ>%admin%conf です。

2. 旧バージョンの uCosminexus Portal Framework - Light をアンインストールします。

アンインストールの方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」を参照してください。マニュアル内の「uCosminexus Portal Framework」は、「uCosminexus Portal Framework - Light」に読み替えてください。

3. uCosminexus Portal Framework 09-00 をインストールします。

インストールの方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」を参照してください。

(3) Collaboration の製品

次に示す Collaboration の製品のうち、使用している製品を更新インストール（上書きインストール）します。

- Groupmax Collaboration Portal
- Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing
- Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule

Collaboration の更新インストールの手順を次に示します。

! 注意事項

Collaboration を更新インストールする場合は、必ず、管理者権限のあるユーザ ID でログインして実施してください。

また、インストール済みの製品と異なる製品は更新インストールできません。インストール済みの製品をアンインストールしてから、新たに製品をインストールしてください。Collaboration のアンインストール、および新規インストールの手順については、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

手順

1. 日立総合インストーラから統合インストーラを起動します。

セットアップタイプ画面が表示されます。

2. 「修正」を選択して、「次へ」ボタンをクリックします。

修正インストールの開始画面が表示されます。

2 前提となる環境の移行

修正インストールをキャンセルしたい場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

3.再インストール情報を確認します。

修正インストールの開始画面に現在の設定内容が表示されます。

設定を変更したい場合は、[戻る] ボタンをクリックして、設定を変更してください。[次へ] ボタンをクリックすると、各コンポーネントのインストーラが呼び出され、インストールの進捗状況が表示されます。インストールが完了すると、インストールが完了したことを知らせるダイアログボックスが表示されます。

4.[完了] ボタンをクリックします。

[Readme を表示させますか?] チェックボックスをチェックしていた場合は、Readme が表示されません。

(4) HiRDB/Run Time Version 9

HiRDB/Run Time Version 9 を上書きインストールします。

HiRDB/Run Time Version 9 のインストールの方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド」を参照してください。

参考

HiRDB/Run Time Version 9 は、Groupmax Collaboration - Data Server に含まれています。

(5) uCosminexus Interschema - Parsing Kit

uCosminexus Interschema - Parsing Kit を上書きインストールします。

uCosminexus Interschema - Parsing Kit のインストールの方法については、製品のドキュメントを参照してください。

参考

uCosminexus Interschema - Parsing Kit は、Groupmax Collaboration - Server に含まれています。

2.3 前提となる環境で共通の設定

Collaboration システムで前提となる環境で共通の設定をします。この作業は、次に示すバージョンの製品を移行する場合に実施します。

対象製品

- Groupmax Collaboration 07-10 以降

ここでは、ディレクトリサーバでの最上位組織の属性の削除、およびアプリケーションサーバでの運用ディレクトリの設定について説明します。

2.3.1 ディレクトリサーバでの最上位組織の属性の削除

ディレクトリサーバで、最上位組織 (LDAPTOP_CLBROOT など) に上位組織を示す属性 (hptlDepartmentDN) が指定されている場合は、属性を削除してください。

2.3.2 運用ディレクトリの設定

アプリケーションサーバで、Collaboration の運用ディレクトリに必要なディレクトリをコピーして、プロパティファイルを設定します。

運用ディレクトリの設定手順を次に示します。

手順

- 1.<Collaboration インストールディレクトリ>%clb_home の内容を任意のディレクトリに退避します。
- 2.Collaboration の各プログラムで提供される次のディレクトリ下にある、「コピーするディレクトリ」に示したディレクトリを Collaboration の運用ディレクトリ:<Collaboration インストールディレクトリ>%clb_home にコピーします。

ディレクトリ

- <Collaboration インストールディレクトリ>%board
- <Collaboration インストールディレクトリ>%calendar
- <Collaboration インストールディレクトリ>%common
- <Collaboration インストールディレクトリ>%community
- <Collaboration インストールディレクトリ>%directoryaccess
- <Collaboration インストールディレクトリ>%filesharing%Client *¹
- <Collaboration インストールディレクトリ>%forum *¹
- <Collaboration インストールディレクトリ>%mail *²
- <Collaboration インストールディレクトリ>%naviview
- <Collaboration インストールディレクトリ>%schedule *²
- <Collaboration インストールディレクトリ>%todo *²

注*1

Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule には含まれません。

注※2

Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing には含まれません。

コピーするディレクトリ

- bin ディレクトリ
- conf ディレクトリ
- lib ディレクトリ

! 注意事項

コピーするディレクトリのうち、Collaboration の各プログラムで提供されるディレクトリ下にあるものはすべてコピーしてください。コピーするディレクトリが、Collaboration の各プログラムで提供されるディレクトリ下でない場合はコピー不要です。

3

データベースサーバの移行

この章では, Collaboration の各機能が使用するデータベースサーバを移行する手順について説明します。なお, Collaboration - File Sharing が使用するデータベースサーバを移行する手順については, 「4. ファイル共有の移行」を参照してください。

3.1 作業項目と製品のバージョンとの対応 (データベースサーバの移行)

ここでは、この章で説明している、データベースサーバを移行する場合に実施する作業が、どの製品のどのバージョンで実施する作業であるかについて説明します。

作業項目と製品のバージョンとの対応を次の表に示します。

表 3-1 作業項目と製品のバージョンとの対応 (データベースサーバの移行)

作業項目		製品のバージョン ^{※1} による作業の要否						参照先
		07-30 以前 ^{※1}	07-32 07-35	07-36	07-50~ 07-82 ^{※2}	07-83~ 07-86 ^{※3}	07-87	
RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更	Collaboration - Forum での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更 ^{※4}	○	○	×	×	×	×	3.2.1
	Collaboration - Bulletin board での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更	○	○	×	×	×	×	3.2.2
	Collaboration - Mail での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更 ^{※5}	○	○	×	×	×	×	3.2.3
データベースの移行	uCosminexus Portal Framework のデータベースの移行	○	×	×	×	×	×	3.3.1
	Collaboration - Forum のデータベースの移行 ^{※4}	○	○	○	○	×	×	3.3.2
	Collaboration - Bulletin board のデータベースの移行	○	○	○	○	○	×	3.3.3

作業項目		製品のバージョン※1 による作業の要否						参照先
		07-30 以前※1	07-32 07-35	07-36	07-50～ 07-82※2	07-83～ 07-86※3	07-87	
データベースの移行	Collaboration - Mail のデータベースの移行※5	○	○	○	○	×	×	3.3.4

(凡例)

○：必要な作業です。

×：不要な作業です。

注※1

07-30 以前とは、Groupmax Collaboration 07-10, 07-20 および 07-30 のことです。

注※2

07-50～07-82 とは、Groupmax Collaboration 07-50, 07-51, 07-52, 07-70, 07-71, 07-72 および 07-82 のことです。

注※3

07-83～07-86 とは、Groupmax Collaboration 07-83, 07-84, 07-85 および 07-86 のことです。

注※4

次の製品を使用している場合、Collaboration - Forum に関する移行作業は不要です。

- Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule

注※5

次の製品を使用している場合、Collaboration - Mail に関する移行作業は不要です。

- Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing

3.2 RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更

Collaboration - Forum, Collaboration - Bulletin board, および Collaboration - Mail が、現在使用しているデータベースの RD エリアを拡張し、インデクス情報を変更します。この作業は、次に示すバージョンの製品を移行する場合に実施します。

対象製品

- Groupmax Collaboration 07-10, 07-20, 07-30, 07-32 および 07-35

ここでは、Collaboration - Forum, Collaboration - Bulletin board, および Collaboration - Mail が使用するデータベースの、RD エリアの拡張、およびインデクス情報の変更を実施する手順について説明します。

3.2.1 Collaboration - Forum での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更

Collaboration - Forum が現在使用しているデータベースの RD エリアを拡張し、インデクス情報を変更します。

なお、RD エリアの拡張は、必要な容量を見積もって、現在使用しているデータベースの容量が不足している場合にだけ実施します。

手順を次に示します。

手順

1. Available Work Area に必要な容量を見積もります。

次に示すインデクスを格納する Available Work Area に必要な容量を見積もります。見積もり方法については、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」を参照してください。

- 本文テーブル（全文検索用テキストデータ）のインデクス (idx_contents2)
- 添付ファイルテーブル（全文検索用テキストデータ）のインデクス (idx_apdfile2)

2. HiRDB のインデクス情報の取得ユーティリティ (phnidxls) を使用して、各インデクスの、現在の Available Work Area のサイズを確認します。

手順 1. で見積もった Available Work Area のサイズと比較して、容量が不足していないかどうかを確認します。

3. 手順 2. で確認した結果、容量が不足している場合は、HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を使用して、RD エリアを拡張します。

手順 2. で確認した結果、Available Work Area の容量が不足している場合には、RD エリアを拡張します。RD エリアの拡張方法については、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」の「RD エリアの拡張」を参照してください。

4. HiRDB のインデクス情報変更ユーティリティ (phnmodidx) を使用して、インデクスの情報を変更します。

次に示すインデクスのインデクス情報を変更します。インデクス情報の変更方法については、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」を参照してください。

- 本文テーブル（全文検索用テキストデータ）のインデクス (idx_contents2)
- 添付ファイルテーブル（全文検索用テキストデータ）のインデクス (idx_apdfile2)

3.2.2 Collaboration - Bulletin board での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更

Collaboration - Bulletin board が現在使用しているデータベースの RD エリアを拡張し、インデクス情報を変更します。

なお、RD エリアの拡張は、必要な容量を見積もって、現在使用しているデータベースの容量が不足している場合にだけ実施します。

手順を次に示します。

手順

1. Available Work Area に必要な容量を見積もります。

次に示すインデクスを格納する Available Work Area に必要な容量を見積もります。見積もり方法については、マニュアル「Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド」を参照してください。

- 本文テーブル（全文検索用テキストデータ）のインデクス (idx_contents2)
- 添付ファイルテーブル（全文検索用テキストデータ）のインデクス (idx_apdfile2)

2. HiRDB のインデクス情報の取得ユティリティ (phnidxls) を使用して、各インデクスの、現在の Available Work Area のサイズを確認します。

手順 1. で見積もった Available Work Area のサイズと比較して、容量が不足していないかどうかを確認します。

3. 手順 2. で確認した結果、容量が不足している場合は、HiRDB のデータベース構成変更ユティリティ (pdmod) を使用して、RD エリアを拡張します。

手順 2. で確認した結果、Available Work Area の容量が不足している場合には、RD エリアを拡張します。RD エリアの拡張方法については、マニュアル「Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド」の「RD エリアの拡張」を参照してください。

4. HiRDB のインデクス情報変更ユティリティ (phnmodidx) を使用して、インデクスの情報を変更します。

次に示すインデクスのインデクス情報を変更します。インデクス情報の変更方法については、マニュアル「Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド」を参照してください。

- 本文テーブル（全文検索用テキストデータ）のインデクス (idx_contents2)
- 添付ファイルテーブル（全文検索用テキストデータ）のインデクス (idx_apdfile2)

3.2.3 Collaboration - Mail での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更

Collaboration - Mail が現在使用しているデータベースの RD エリアを拡張し、インデクス情報を変更します。

なお、RD エリアの拡張は、必要な容量を見積もって、現在使用しているデータベースの容量が不足している場合にだけ実施します。

手順を次に示します。

手順

1. Available Work Area に必要な容量を見積もります。

次に示すインデックスを格納する Available Work Area に必要な容量を見積もります。見積もり方法については、マニュアル「Collaboration - Mail システム管理者ガイド」を参照してください。

- 本文テーブル（全文検索用テキストデータ）のインデックス (idx_contents2)
- 添付ファイルテーブル（全文検索用テキストデータ）のインデックス (idx_apdfile2)

2. HiRDB のインデックス情報の取得ユーティリティ (phnidxls) を使用して、各インデックスの、現在の Available Work Area のサイズを確認します。

手順 1. で見積もった Available Work Area のサイズと比較して、容量が不足していないかどうかを確認します。

3. 手順 2. で確認した結果、容量が不足している場合は、HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を使用して、RD エリアを拡張します。

手順 2. で確認した結果、Available Work Area の容量が不足している場合には、RD エリアを拡張します。RD エリアの拡張方法については、マニュアル「Collaboration - Mail システム管理者ガイド」を参照してください。

4. HiRDB のインデックス情報変更ユーティリティ (phnmodidx) を使用して、インデックスの情報を変更します。

次に示すインデックスのインデックス情報を変更します。インデックス情報の変更方法については、マニュアル「Collaboration - Mail システム管理者ガイド」を参照してください。

- 本文テーブル（全文検索用テキストデータ）のインデックス (idx_contents2)
- 添付ファイルテーブル（全文検索用テキストデータ）のインデックス (idx_apdfile2)

3.3 データベースの移行

Collaboration の各機能が現在使用しているデータベースを移行します。この作業は、次に示すバージョンの製品を移行する場合に実施します。

対象製品

- Groupmax Collaboration 07-10, 07-20, 07-30, 07-32^{*1}, 07-35^{*1}, 07-36^{*1}, 07-50^{*1*}², 07-51^{*1*}², 07-52^{*1*}², 07-70^{*1*}², 07-71^{*1*}², 07-72^{*1*}² および 07-82^{*1*}²

注※1

Groupmax Collaboration 07-32 以降から移行する場合、uCosminexus Portal Framework のデータベースの移行作業は不要です。

注※2

Groupmax Collaboration 07-50 以降から移行する場合、Collaboration - Mail のデータベースの移行作業は不要です。

ここでは、Collaboration - Online Community Management, Collaboration - Forum, Collaboration - Bulletin board, および Collaboration - Mail が使用するデータベースを移行する場合に必要な次の作業について説明します。なお、Collaboration - File Sharing のデータベースの移行手順については、「4.2 Collaboration - File Sharing の移行」を参照してください。

- uCosminexus Portal Framework のデータベースの移行
- Collaboration - Forum のデータベースの移行
- Collaboration - Bulletin board のデータベースの移行
- Collaboration - Mail のデータベースの移行

参考

Collaboration - Online Community Management のデータベースの移行作業は不要です。

3.3.1 uCosminexus Portal Framework のデータベースの移行

旧バージョンの uCosminexus Portal Framework から uCosminexus Portal Framework 09-00 にデータベースを移行します。

旧バージョンの uCosminexus Portal Framework から uCosminexus Portal Framework 09-00 にデータベースを移行する場合、次の設定が必要です。

- 表示属性を使用するための設定^{*1}
- ポートレットグループを使用するための設定
- Web コンテンツポートレットを使用するための設定
- アクセス権の移行^{*2}

注※1

uCosminexus Portal Framework 06-30 (Groupmax Collaboration 07-30) から移行する場合、表示属性を使用するための設定作業は不要です。

注※2

uCosminexus Portal Framework 06-11 または 06-30 (Groupmax Collaboration 07-20 または Groupmax Collaboration 07-30) から移行する場合、アクセス権の移行作業は不要です。

これらの設定を実施する場合、事前に Collaboration の RD エリアを作成しておく必要があります。なお、既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認してください。

データベースの移行手順を次に示します。

手順

1. HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を使用して、RD エリアを作成します。RD エリアを作成する制御文の例を次に示します。

Cosminexus Portal Framework 06-10 または uCosminexus Portal Framework 06-11 (Groupmax Collaboration 07-10 または Groupmax Collaboration 07-20) から移行する場合

```
create rdarea RDARRANGE for user used by PUBLIC
  page 8192 characters
  storage control segment 10 pages
  file name "D:\win32app\hitachi\hirdb_s\area\portal\rdarrange"
initial 20 segments ;

create rdarea RDPORLETGROUP for user used by PUBLIC
  page 4096 characters
  storage control segment 20 pages
  file name "D:\win32app\hitachi\hirdb_s\area\portal\RDPORLETGROUP"
initial 20 segments;

create rdarea RDLOBPG1 for LOB used by PUBLIC
  file name "D:\win32app\hitachi\hirdb_s\area\portallob\RDLOBPG1"
initial 20 segments;

create rdarea RDLOBPG2 for LOB used by PUBLIC
  file name "D:\win32app\hitachi\hirdb_s\area\portallob\RDLOBPG2"
initial 20 segments;

create rdarea RDCOMPONENTPORLET for user used by PUBLIC
  page 4096 characters
  storage control segment 20 pages
  file name "D:\win32app\hitachi\hirdb_s\area\portal\RDCOMPONENTPORLET"
initial 20 segments;
```

uCosminexus Portal Framework 06-30 (Groupmax Collaboration 07-30) から移行する場合

```
create rdarea RDPORLETGROUP for user used by PUBLIC
  page 4096 characters
  storage control segment 20 pages
  file name "D:\win32app\hitachi\hirdb_s\area\portal\RDPORLETGROUP"
initial 20 segments;

create rdarea RDLOBPG1 for LOB used by PUBLIC
  file name "D:\win32app\hitachi\hirdb_s\area\portallob\RDLOBPG1"
initial 20 segments;

create rdarea RDLOBPG2 for LOB used by PUBLIC
  file name "D:\win32app\hitachi\hirdb_s\area\portallob\RDLOBPG2"
initial 20 segments;

create rdarea RDCOMPONENTPORLET for user used by PUBLIC
  page 4096 characters
  storage control segment 20 pages
  file name "D:\win32app\hitachi\hirdb_s\area\portal\RDCOMPONENTPORLET"
initial 20 segments;
```

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 解説 (Windows(R)用)」の「RD エリアの作成方法」、およびマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導

入・設計ガイド (Windows(R)用)」の「RD エリアを作成する方法 (RD エリアの追加)」を参照してください。

2. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。HiRDB のシステム定義ファイルに追加する記述の例を次に示します。

Cosminexus Portal Framework 06-10 または uCosminexus Portal Framework 06-11 (Groupmax Collaboration 07-10 または Groupmax Collaboration 07-20) から移行する場合

```
pdbuffer -a GBUFRDARRANGE -r RDARRANGE -n 100
pdbuffer -a GBUFRDPTLTGROUP -r RDPORTLETGROUP -n 100
pdbuffer -a GBUFRDLOBPG11 -r RDLOBPG1 -n 100
pdbuffer -a GBUFRDLOBPG12 -b RDLOBPG1 -n 10
pdbuffer -a GBUFRDLOBPG21 -r RDLOBPG2 -n 100
pdbuffer -a GBUFRDLOBPG22 -b RDLOBPG2 -n 10
pdbuffer -a GBUFRDCMPTPTLT -r RDCOMPONENTPORTLET -n 100
```

uCosminexus Portal Framework 06-30 (Groupmax Collaboration 07-30) から移行する場合

```
pdbuffer -a GBUFRDPTLTGROUP -r RDPORTLETGROUP -n 100
pdbuffer -a GBUFRDLOBPG11 -r RDLOBPG1 -n 100
pdbuffer -a GBUFRDLOBPG12 -b RDLOBPG1 -n 10
pdbuffer -a GBUFRDLOBPG21 -r RDLOBPG2 -n 100
pdbuffer -a GBUFRDLOBPG22 -b RDLOBPG2 -n 10
pdbuffer -a GBUFRDCMPTPTLT -r RDCOMPONENTPORTLET -n 100
```

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

3. SQL 文を実行し、ポートレット表示属性管理テーブル (PORTLET_ARRANGE) を追加します。

! 注意事項

uCosminexus Portal Framework 06-30 (Groupmax Collaboration 07-30) から移行する場合、この作業は不要です。

実行する SQL 文については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」の「表示属性を使用するための設定」を参照してください。

4. SQL 文を実行し、ポートレットグループ管理テーブル (PORTLET_GROUP および PORTLET_ENTRY) を追加します。

実行する SQL 文については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」の「ポートレットグループを使用するための設定」を参照してください。

5. SQL 文を実行し、Web コンテンツポートレット管理テーブル (COMPONENT_PORTLET) を追加します。

実行する SQL 文については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」の「Web コンテンツポートレットを使用するための設定」を参照してください。

6. アクセス権の移行を実施します。

! 注意事項

uCosminexus Portal Framework 06-11 または 06-30 (Groupmax Collaboration 07-20 または Groupmax Collaboration 07-30) から移行する場合、この作業は不要です。

詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」の「アクセス権の移行」を参照してください。

3.3.2 Collaboration - Forum のデータベースの移行

旧バージョンの Collaboration - Forum から Collaboration - Forum 01-84 にデータベースを移行します。ここでは、バージョンごとに必要な作業について説明します。

Collaboration - Forum のデータベース移行作業で使用する SQL ファイルの格納先については、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」の「インストールディレクトリ構成」を参照してください。

データベース移行時の注意事項

- Collaboration - Forum 01-84 を上書きインストールしたあと、マスタレコードを再登録する場合は、マスタレコードファイル (hptl_clb_cfr_master.sql) を実行します。シーケンスマスタレコードファイル (hptl_clb_cfr_master_sequence.sql) を実行しないでください。
- <Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_db_cfr_delete_master.sql を実行して、旧バージョンの Collaboration - Forum のマスタデータを削除すると、パラメタ管理テーブルに登録されているシステムパラメタも削除されます。パラメタの値を変更している場合は、旧バージョンの Collaboration - Forum で使用していたデータベースのバックアップ取得時に、hptl_clb_cfr_command.properties をバックアップしておく必要があります。

(1) Collaboration - Forum 01-10 からの移行

Collaboration - Forum 01-10 からのデータベースの移行手順を次に示します。

手順

1. Collaboration - Forum 01-10 で使用していたデータベースのバックアップを取得します。

データベースのバックアップは、システム全体、RD エリアなどの単位で取得できます。バックアップの取得方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

2. 次の操作を順に実行して、RD エリアを作成します。

- hptl_clb_cfr_area_shift_0130.sql および hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql の編集
<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_area_shift_0130.sql, および <Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を、任意のワークディレクトリにコピーします。ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cfr_area_shift_0130.sql および hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を編集して、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を変更します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。
- ファイルシステムの空き容量の確認
既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認します。
- hptl_clb_cfr_area_shift_0130.sql および hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql の実行
HiRDB のデータベース構成変更ユティリティ (pdmod) を使用して、ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cfr_area_shift_0130.sql および hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を実行し、RD エリアを作成します。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Forum で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。
RD エリアを作成する前に、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の「RD エリアを追加する前に」の注意事項を確認してください。

3. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。

Collaboration - Forum では、グローバルバッファと RD エリアを 1 対 1 で割り当てる場合に HiRDB のシステム共通定義ファイルに追加する記述の例として、<Collaboration - Forum インストールディ

レクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_pdsys_shift_0130.txt, および<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_pdsys_shift_0150.txt を提供しています。

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

4. 次の作業を順に実行して、カラムの追加、およびレコードの更新と設定を行います。

- hptl_clb_cfr_shift_0120.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_shift_0120.sql を実行します。
- hptl_clb_cfr_shift_0130.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_shift_0130.sql を実行し、カラムの追加、およびレコードの更新と設定を行います。
ただし、「GMT+09:00」以外のタイムゾーンを使用している場合は、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_shift_0130.sql を編集して、環境に応じて、"GMT+09:00"および"-00000000090000."の設定を変更する必要があります。タイムゾーンの設定方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド」を参照してください。
- hptl_clb_cfr_shift_0132.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_shift_0132.sql を実行します。

5. 次の作業を順に実行して、形式が変更されるテーブルを再作成、または追加となるテーブルとインデクスを作成します。

「KPPA11204-E Table/index/trigger aa....aa."bb...bb" not found in system」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

- hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0130.sql の実行
HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0130.sql を実行します。
 - hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0135.sql の実行
HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0135.sql を実行します。
 - hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0150.sql の実行
HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0150.sql を実行します。
6. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_db_cfr_delete_master.sql を実行し、Collaboration - Forum 01-10 のマスタデータを削除します。
7. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_master.sql を実行し、Collaboration - Forum 01-84 のマスタデータを登録します。
8. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_master_sequence_shift_0130.sql を実行し、シーケンスマスタレコードを登録します。

9. テーブルの新規構築や再作成を行っているため、Collaboration - Bulletin board および Collaboration - Mail とコネクションを共有している場合は、次の作業を順に実行して、CONNECT ユーザに Collaboration - Forum のテーブルへのアクセス権限を与えます。

- hptl_clb_cfr_grant.sql の編集
＜Collaboration - Forum インストールディレクトリ＞*sys*hptl_clb_cfr_grant.sql を編集して、環境に応じて、「認可識別子」、「パスワード」および「clbforum（スキーマ名）」を変更します。
- hptl_clb_cfr_grant.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ（pdsq）を使用して、＜Collaboration - Forum インストールディレクトリ＞*sys*hptl_clb_cfr_grant.sql を実行し、CONNECT ユーザに Collaboration - Forum のテーブルへのアクセス権限を与えます。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」の「旧バージョンからの移行について」を参照してください。

(2) Collaboration - Forum 01-20 からの移行

Collaboration - Forum 01-20 からのデータベースの移行手順を次に示します。

手順

1. Collaboration - Forum 01-20 で使用していたデータベースのバックアップを取得します。

データベースのバックアップは、システム全体、RD エリアなどの単位で取得できます。バックアップの取得方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド（Windows(R)用）」を参照してください。

2. 次の手順を順に実行して、RD エリアを作成します。

- hptl_clb_cfr_area_shift_0130.sql および hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql の編集
＜Collaboration - Forum インストールディレクトリ＞*sys*hptl_clb_cfr_area_shift_0130.sql および＜Collaboration - Forum インストールディレクトリ＞*sys *hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を、任意のワークディレクトリにコピーします。ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cfr_area_shift_0130.sql および hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を編集して、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を変更します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。
- ファイルシステムの空き容量の確認
既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認します。
- hptl_clb_cfr_area_shift_0130.sql および hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql の実行
HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ（pdmod）を使用して、ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cfr_area_shift_0130.sql および hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を実行し、RD エリアを作成します。この際、接続ユーザ（認可識別子）を Collaboration - Forum で使用している接続ユーザ（認可識別子）に変更して実行してください。
RD エリアを作成する前に、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド（Windows(R)用）」の「RD エリアを追加する前に」の注意事項を確認してください。

3. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。

Collaboration - Forum では、グローバルバッファと RD エリアを 1 対 1 で割り当てる場合に HiRDB のシステム共通定義ファイルに追加する記述の例として、＜Collaboration - Forum インストールディ

レクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_pdsys_shift_0130.txt, および<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_pdsys_shift_0150.txt を提供しています。

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

4. 次の作業を実行して、カラムの追加、およびレコードの更新と設定を行います。

- hptl_clb_cfr_shift_0130.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_shift_0130.sql を実行し、カラムの追加、およびレコードの更新と設定を行います。
ただし、「GMT+09:00」以外のタイムゾーンを使用している場合は、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_shift_0130.sql を編集して、環境に応じて、「GMT+09:00"および"-00000000090000."の設定を変更する必要があります。タイムゾーンの設定方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド」を参照してください。
- hptl_clb_cfr_shift_0132.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_shift_0132.sql を実行します。

5. 次の作業を順に実行して、形式が変更されるテーブルを再作成、または追加となるテーブルとインデクスを作成します。

「KFPAA11204-E Table/index/trigger aa....aa."bb....bb" not found in system」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

- hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0130.sql の実行
HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0130.sql を実行します。
 - hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0135.sql の実行
HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0135.sql を実行します。
 - hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0150.sql の実行
HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0150.sql を実行します。
6. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_db_cfr_delete_master.sql を実行し、Collaboration - Forum 01-20 のマスタデータを削除します。
7. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_master.sql を実行し、Collaboration - Forum 01-84 のマスタデータを登録します。
8. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>¥sys¥hptl_clb_cfr_master_sequence_shift_0130.sql を実行し、シーケンスマスタレコードを登録します。
9. テーブルの新規構築や再作成を行っているため、Collaboration - Bulletin board および Collaboration - Mail とコネクションを共有している場合は、次の作業を順に実行して、CONNECT ユーザに Collaboration - Forum のテーブルへのアクセス権限を与えます。
- hptl_clb_cfr_grant.sql の編集

<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_grant.sql を編集して、環境に応じて、「認可識別子」、「パスワード」および「clbforum（スキーマ名）」を変更します。

- hptl_clb_cfr_grant.sql の実行

HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ（pdsq）を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_grant.sql を実行し、CONNECT ユーザに Collaboration - Forum のテーブルへのアクセス権限を与えます。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」の「旧バージョンからの移行について」を参照してください。

(3) Collaboration - Forum 01-30 からの移行

Collaboration - Forum 01-30 からのデータベースの移行手順を次に示します。

手順

1. Collaboration - Forum 01-30 で使用していたデータベースのバックアップを取得します。

データベースのバックアップは、システム全体、RD エリアなどの単位で取得できます。バックアップの取得方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド（Windows(R)用）」を参照してください。

2. 次の操作を順に実行して、RD エリアを作成します。

- hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql の編集

<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を、任意のワークディレクトリにコピーします。ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を編集して、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を変更します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。

- ファイルシステムの空き容量の確認

既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認します。

- hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql の実行

HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ（pdmod）を使用して、ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を実行し、RD エリアを作成します。この際、接続ユーザ（認可識別子）を Collaboration - Forum で使用している接続ユーザ（認可識別子）に変更して実行してください。

RD エリアを作成する前に、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド（Windows(R)用）」の「RD エリアを追加する前に」の注意事項を確認してください。

3. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。

Collaboration - Forum では、グローバルバッファと RD エリアを 1 対 1 で割り当てる場合に HiRDB のシステム共通定義ファイルに追加する記述の例として、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_pdsys_shift_0150.txt を提供しています。

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド（Windows(R)用）」を参照してください。

4. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ（pdsq）を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_shift_0132.sql を実行し、カラムの追加を行います。この際、接

続ユーザ（認可識別子）を Collaboration - Forum で使用している接続ユーザ（認可識別子）に変更して実行してください。

5. 次の作業を順に実行して、追加となるインデクスを作成します。

「KFPA11204-E Table/index/trigger aa....aa."bb....bb" not found in system」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

- hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0135.sql の実行
HiRDB のデータベース定義ユーティリティ（pddef）を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0135.sql を実行します。
- hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0150.sql の実行
HiRDB のデータベース定義ユーティリティ（pddef）を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0150.sql を実行します。

6. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ（pdsq）を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_delete_master.sql を実行し、Collaboration - Forum 01-30 のマスタデータを削除します。

7. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ（pdsq）を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_master.sql を実行し、Collaboration - Forum 01-84 のマスタデータを登録します。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」の「旧バージョンからの移行について」を参照してください。

(4) Collaboration - Forum 01-32 からの移行

Collaboration - Forum 01-32 からのデータベースの移行手順を次に示します。

手順

1. Collaboration - Forum 01-32 で使用していたデータベースのバックアップを取得します。

データベースのバックアップは、システム全体、RD エリアなどの単位で取得できます。バックアップの取得方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド（Windows(R)用）」を参照してください。

2. 次の操作を順に実行して、RD エリアを作成します。

- hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql の編集
<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を、任意のワークディレクトリにコピーします。ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を編集して、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を変更します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。
- ファイルシステムの空き容量の確認
既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認します。
- hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql の実行
HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ（pdmod）を使用して、ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を実行し、RD エリアを作成します。この際、接続ユーザ（認可識別子）を Collaboration - Forum で使用している接続ユーザ（認可識別子）に変更して実行してください。

3 データベースサーバの移行

RD エリアを作成する前に、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の「RD エリアを追加する前に」の注意事項を確認してください。

3. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。

Collaboration - Forum では、グローバルバッファと RD エリアを 1 対 1 で割り当てる場合に HiRDB のシステム共通定義ファイルに追加する記述の例として、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_pdsys_shift_0150.txt を提供しています。

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

4. 次の作業を順に実行して、追加となるインデクスを作成します。

「KFP A11204-E Table/index/trigger aa....aa."bb...bb" not found in system」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

- hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0135.sql の実行
HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0135.sql を実行します。
- hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0150.sql の実行
HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0150.sql を実行します。

5. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_delete_master.sql を実行し、Collaboration - Forum 01-32 のマスタデータを削除します。

6. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_master.sql を実行し、Collaboration - Forum 01-84 のマスタデータを登録します。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」の「旧バージョンからの移行について」を参照してください。

(5) Collaboration - Forum 01-35 または 01-36 からの移行

Collaboration - Forum 01-35 または 01-36 からのデータベースの移行手順を次に示します。

手順

1. Collaboration - Forum 01-35 または 01-36 で使用していたデータベースのバックアップを取得します。

データベースのバックアップは、システム全体、RD エリアなどの単位で取得できます。バックアップの取得方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

2. 次の操作を順に実行して、RD エリアを作成します。

- hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql の編集
<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を、任意のワークディレクトリにコピーします。ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を編集して、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を変更します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。
- ファイルシステムの空き容量の確認

既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認します。

- hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql の実行

HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を使用して、ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を実行し、RD エリアを作成します。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Forum で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。

RD エリアを作成する前に、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の「RD エリアを追加する前に」の注意事項を確認してください。

3. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。

Collaboration - Forum では、グローバルバッファと RD エリアを 1 対 1 で割り当てる場合に HiRDB のシステム共通定義ファイルに追加する記述の例として、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_pdsys_shift_0150.txt を提供しています。

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

4. HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0150.sql を実行し、追加となるインデックスを作成します。

「KFPA11204-E Table/index/trigger aa....aa."bb....bb" not found in system」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

5. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_delete_master.sql を実行し、Collaboration - Forum 01-35 または 01-36 のマスタデータを削除します。

6. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_master.sql を実行し、Collaboration - Forum 01-84 のマスタデータを登録します。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」の「旧バージョンからの移行について」を参照してください。

(6) Collaboration - Forum 01-50, 01-81, または 01-82 からの移行

Collaboration - Forum 01-50, 01-81, または 01-82 からのデータベースの移行手順を次に示します。

手順

1. Collaboration - Forum 01-50, 01-81, または 01-82 で使用していたデータベースのバックアップを取得します。

データベースのバックアップは、システム全体、RD エリアなどの単位で取得できます。バックアップの取得方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

2. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_delete_master.sql を実行し、Collaboration - Forum 01-50, 01-81, または 01-82 のマスタデータを削除します。

3. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_master.sql を実行し、Collaboration - Forum 01-84 のマスターデータを登録します。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」の「旧バージョンからの移行について」を参照してください。

3.3.3 Collaboration - Bulletin board のデータベースの移行

旧バージョンの Collaboration - Bulletin board から Collaboration - Bulletin board 01-84 にデータベースを移行します。ここでは、バージョンごとに必要な作業について説明します。

Collaboration - Bulletin board のデータベース移行作業で使用する SQL ファイルの格納先については、マニュアル「Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド」の「インストールディレクトリ構成」を参照してください。

(1) Collaboration - Bulletin board 01-10 からの移行

Collaboration - Bulletin board 01-10 からのデータベースの移行手順を次に示します。

手順

1. Collaboration - Bulletin board 01-10 で使用していたデータベースのバックアップを取得します。

データベースのバックアップは、システム全体、RD エリアなどの単位で取得できます。バックアップの取得方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

2. 次の操作を順に実行して、RD エリアを作成します。

- hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql の編集

<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys

%hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を、任意のワークディレクトリにコピーします。ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を編集して、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を変更します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。

- ファイルシステムの空き容量の確認

既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認します。

- hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql の実行

HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を使用して、ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を実行し、RD エリアを作成します。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Bulletin board で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。

RD エリアを作成する前に、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の「RD エリアを追加する前に」の注意事項を確認してください。

3. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。

Collaboration - Bulletin board では、グローバルバッファと RD エリアを 1 対 1 で割り当てる場合に HiRDB のシステム共通定義ファイルに追加する記述の例として、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_pdsys_shift_0150.txt を提供しています。

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

4. HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_tbl_idx_shift_0150.sql を実行し、追加となるインデックスを作成します。

「KFFPA11204-E Table/index/trigger aa....aa."bb....bb" not found in system」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

5. 次の作業を順に実行して、カラム、レコードなどの追加と更新を行います。この際、接続ユーザ（認可識別子）を Collaboration - Bulletin board で使用している接続ユーザ（認可識別子）に変更して実行してください。

- hptl_clb_cbb_shift_0130.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0130.sql を実行します。
- hptl_clb_cbb_shift_0132.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0132.sql を実行します。
- hptl_clb_cbb_shift_0150.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0150.sql を実行します。
- hptl_clb_cbb_shift_0183.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0183.sql を実行します。
- hptl_clb_cbb_shift_0187.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0187.sql を実行します。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド」の「旧バージョンからの移行について」を参照してください。

(2) Collaboration - Bulletin board 01-20 からの移行

Collaboration - Bulletin board 01-20 からのデータベースの移行手順を次に示します。

手順

1. Collaboration - Bulletin board 01-20 で使用していたデータベースのバックアップを取得します。
データベースのバックアップは、システム全体、RD エリアなどの単位で取得できます。バックアップの取得方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。
2. 次の操作を順に実行して、RD エリアを作成します。
 - hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql の編集
<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を、任意のワークディレクトリにコピーします。ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を編集して、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を変更します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。

- ファイルシステムの空き容量の確認

既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認します。

- hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql の実行

HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を使用して、ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を実行し、RD エリアを作成します。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Bulletin board で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。

RD エリアを作成する前に、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の「RD エリアを追加する前に」の注意事項を確認してください。

3. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。

Collaboration - Bulletin board では、グローバルバッファと RD エリアを 1 対 1 で割り当てる場合に HiRDB のシステム共通定義ファイルに追加する記述の例として、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_pdsys_shift_0150.txt を提供しています。

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

4. HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_tbl_idx_shift_0150.sql を実行し、追加となるインデクスを作成します。

「KFP11204-E Table/index/trigger aa....aa."bb....bb" not found in system」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

5. 次の作業を順に実行して、カラム、レコードなどの追加と更新を行います。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Bulletin board で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。

- hptl_clb_cbb_shift_0130.sql の実行

HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0130.sql を実行します。

- hptl_clb_cbb_shift_0132.sql の実行

HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0132.sql を実行します。

- hptl_clb_cbb_shift_0150.sql の実行

HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0150.sql を実行します。

- hptl_clb_cbb_shift_0183.sql の実行

HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0183.sql を実行します。

- hptl_clb_cbb_shift_0187.sql の実行

HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0187.sql を実行します。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド」の「旧バージョンからの移行について」を参照してください。

(3) Collaboration - Bulletin board 01-30 からの移行

Collaboration - Bulletin board 01-30 からのデータベースの移行手順を次に示します。

手順

1. Collaboration - Bulletin board 01-30 で使用していたデータベースのバックアップを取得します。
データベースのバックアップは、システム全体、RD エリアなどの単位で取得できます。バックアップの取得方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。
2. 次の操作を順に実行して、RD エリアを作成します。
 - hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql の編集
 <Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys
 %hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を、任意のワークディレクトリにコピーします。ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を編集して、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を変更します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。
 - ファイルシステムの空き容量の確認
 既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認します。
 - hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql の実行
 HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を使用して、ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を実行し、RD エリアを作成します。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Bulletin board で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。
 RD エリアを作成する前に、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の「RD エリアを追加する前に」の注意事項を確認してください。
3. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。
 Collaboration - Bulletin board では、グローバルバッファと RD エリアを 1 対 1 で割り当てる場合に HiRDB のシステム共通定義ファイルに追加する記述の例として、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_pdsys_shift_0150.txt を提供しています。
 詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。
4. HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_tbl_idx_shift_0150.sql を実行し、追加となるインデックスを作成します。
 「KFP A11204-E Table/index/trigger aa....aa."bb....bb" not found in system」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。
5. 次の作業を順に実行して、カラム、レコードなどの追加と更新を行います。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Bulletin board で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。
 - hptl_clb_cbb_shift_0132.sql の実行
 HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0132.sql を実行します。
 - hptl_clb_cbb_shift_0150.sql の実行

HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0150.sql を実行します。

- hptl_clb_cbb_shift_0183.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0183.sql を実行します。
- hptl_clb_cbb_shift_0187.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0187.sql を実行します。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド」の「旧バージョンからの移行について」を参照してください。

(4) Collaboration - Bulletin board 01-32 からの移行

Collaboration - Bulletin board 01-32 からのデータベースの移行手順を次に示します。

手順

1. Collaboration - Bulletin board 01-32 で使用していたデータベースのバックアップを取得します。

データベースのバックアップは、システム全体、RD エリアなどの単位で取得できます。バックアップの取得方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

2. 次の操作を順に実行して、RD エリアを作成します。

- hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql の編集
<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を、任意のワークディレクトリにコピーします。ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を編集して、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を変更します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。
- ファイルシステムの空き容量の確認
既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認します。
- hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql の実行
HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を使用して、ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を実行し、RD エリアを作成します。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Bulletin board で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。
RD エリアを作成する前に、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の「RD エリアを追加する前に」の注意事項を確認してください。

3. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。

Collaboration - Bulletin board では、グローバルバッファと RD エリアを 1 対 1 で割り当てる場合に HiRDB のシステム共通定義ファイルに追加する記述の例として、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_pdsys_shift_0150.txt を提供しています。

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

4. HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_tbl_idx_shift_0150.sql を実行し、追加となるインデックスを作成します。

「KFPAA11204-E Table/index/trigger aa....aa."bb....bb" not found in system」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

5. 次の作業を順に実行して、カラム、レコードなどの追加と更新を行います。この際、接続ユーザ（認可識別子）を Collaboration - Bulletin board で使用している接続ユーザ（認可識別子）に変更して実行してください。

- hptl_clb_cbb_shift_0150.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0150.sql を実行します。
- hptl_clb_cbb_shift_0183.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0183.sql を実行します。
- hptl_clb_cbb_shift_0187.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0187.sql を実行します。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド」の「旧バージョンからの移行について」を参照してください。

(5) Collaboration - Bulletin board 01-35 または 01-36 からの移行

Collaboration - Bulletin board 01-35 または 01-36 からのデータベースの移行手順を次に示します。

手順

1. Collaboration - Bulletin board 01-35 または 01-36 で使用していたデータベースのバックアップを取得します。

データベースのバックアップは、システム全体、RD エリアなどの単位で取得できます。バックアップの取得方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

2. 次の操作を順に実行して、RD エリアを作成します。

- hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql の編集
<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を、任意のワークディレクトリにコピーします。ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を編集して、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を変更します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。
- ファイルシステムの空き容量の確認
既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認します。
- hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql の実行
HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を使用して、ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を実行し、RD エリアを作成します。この際、接続ユーザ（認可識別子）を Collaboration - Bulletin board で使用している接続ユーザ（認可識別子）に変更して実行してください。

RD エリアを作成する前に、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の「RD エリアを追加する前に」の注意事項を確認してください。

3. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。

Collaboration - Bulletin board では、グローバルバッファと RD エリアを 1 対 1 で割り当てる場合に HiRDB のシステム共通定義ファイルに追加する記述の例として、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_pdsys_shift_0150.txt を提供しています。

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

4. HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_tbl_idx_shift_0150.sql を実行し、追加となるインデックスを作成します。

「KFP11204-E Table/index/trigger aa....aa."bb....bb" not found in system」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

5. 次の作業を順に実行して、カラム、レコードなどの追加と更新を行います。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Bulletin board で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。

- hptl_clb_cbb_shift_0150.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0150.sql を実行します。
- hptl_clb_cbb_shift_0183.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0183.sql を実行します。
- hptl_clb_cbb_shift_0187.sql の実行
HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0187.sql を実行します。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド」の「旧バージョンからの移行について」を参照してください。

(6) Collaboration - Bulletin board 01-50, 01-81, または 01-82 からの移行

Collaboration - Bulletin board 01-50, 01-81, または 01-82 からのデータベースの移行手順を次に示します。

手順

1. Collaboration - Bulletin board 01-50, 01-81, または 01-82 で使用していたデータベースのバックアップを取得します。

データベースのバックアップは、システム全体、RD エリアなどの単位で取得できます。バックアップの取得方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

2. 次の操作を順に実行して、RD エリアを作成します。

- hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql の編集
<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を、任意のワークディレクトリにコピーします。ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を編集して、認可識別子および RD エリア

を構成する HiRDB ファイル名を変更します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。

- ファイルシステムの空き容量の確認

既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認します。

- hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql の実行

HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を使用して、ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cbb_area_shift_0150.sql を実行し、RD エリアを作成します。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Bulletin board で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。

RD エリアを作成する前に、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の「RD エリアを追加する前に」の注意事項を確認してください。

3. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。

Collaboration - Bulletin board では、グローバルバッファと RD エリアを 1 対 1 で割り当てる場合に HiRDB のシステム共通定義ファイルに追加する記述の例として、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_pdsys_shift_0150.txt を提供しています。

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

4. HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_tbl_idx_shift_0150.sql を実行し、追加となるインデクスを作成します。

「KFP11204-E Table/index/trigger aa....aa."bb....bb" not found in system」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

5. 次の作業を順に実行して、カラム、レコードなどの追加と更新を行います。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Bulletin board で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。

- hptl_clb_cbb_shift_0150.sql の実行

HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0150.sql を実行します。

- hptl_clb_cbb_shift_0183.sql の実行

HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0183.sql を実行します。

- hptl_clb_cbb_shift_0187.sql の実行

HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0187.sql を実行します。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド」の「旧バージョンからの移行について」を参照してください。

(7) Collaboration - Bulletin board 01-83, または 01-84 からの移行

Collaboration - Bulletin board 01-83, または 01-84 からのデータベースの移行手順を次に示します。

手順

1. Collaboration - Bulletin board 01-83, または 01-84 で使用していたデータベースのバックアップを取得します。

データベースのバックアップは、システム全体、RD エリアなどの単位で取得できます。バックアップの取得方法については、マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム運用ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

2. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Bulletin board インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cbb_shift_0187.sql を実行します。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Bulletin board で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド」の「旧バージョンからの移行について」を参照してください。

3.3.4 Collaboration - Mail のデータベースの移行

旧バージョンの Collaboration - Mail から Collaboration - Mail 01-85 にデータベースを移行します。ここでは、バージョンごとに必要な作業について説明します。

(1) Collaboration - Mail 01-10 からの移行

Collaboration - Mail 01-10 からのデータベースの移行手順を次に示します。移行手順は、機能ごとに分けて説明します。

● 全文検索機能を使用するための設定

Collaboration - Mail で全文検索機能を使用するために、次の作業が必要です。

手順

1. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Mail インストールディレクトリ>%sample%hptl_clb_cml_tsindex.sql を実行し、データベースに保存されている添付ファイルを全文検索できる状態にします。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Mail で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。

添付ファイル付きのメールがデータベースに保存されていない場合は、「KFPFA12100-I No rows satisfying search condition」というメッセージが表示されますが、問題ありません。

! 注意事項

Cosminexus DABroker Library に設定する「BLOB/LONG/CLOB 型データ受信バッファサイズグループの HiRDB 部分」を見直す必要があります。詳細は、マニュアル「Collaboration - Mail システム管理者ガイド」を参照してください。

2. マニュアル「Collaboration - Mail システム管理者ガイド」の「全文検索の準備」に従って、データベースに保存されているメールおよび添付ファイルを、全文検索の対象に設定します。

● サイズ表示機能を使用するための設定

Collaboration - Mail でサイズ表示機能を使用するため、データベースを拡張する必要があります。データベース環境を構築した場合、次の作業が必要です。

手順

1. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Mail インストールディレクトリ>%sample%hptl_clb_cml_0120to0130.sql を実行して、サイズ表示機能のカラムデータを追加します。

● データベースへ高速にアクセスするための設定

Collaboration - Mail でデータベースへ高速にアクセスするために、次の作業が必要です。

手順

1. 次の操作を順に実行して、RD エリアを作成します。

- hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql の編集
 <Collaboration - Mail インストールディレクトリ>%sample%hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql を、任意のワークディレクトリにコピーします。ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql を編集して、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を変更します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。
- ファイルシステムの空き容量の確認
 既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認します。ファイルシステムに空き領域がない場合は、新しいファイルシステム領域を作成してください。
- hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql の実行
 HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を使用して、ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql を実行し、RD エリアを作成します。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Mail で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。
 RD エリアを作成する前に、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の「RD エリアを追加する前に」の注意事項を確認してください。

2. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。

Collaboration - Mail では、グローバルバッファと RD エリアを 1 対 1 で割り当てる場合に HiRDB のシステム共通定義ファイルに追加する記述の例として、<Collaboration - Mail インストールディレクトリ>%sample%hptl_clb_cml_pdsys_shift_0150.txt を提供しています。

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

3. HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Mail インストールディレクトリ>%sample%hptl_clb_cml_tbl_idx_shift_0150.sql を実行し、追加となるインデクスを作成します。

「KFP A11204-E Table/index/trigger aa....aa."bb....bb" not found in system」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Mail システム管理者ガイド」の「旧バージョンから移行する場合の設定」を参照してください。

(2) Collaboration - Mail 01-20 からの移行

Collaboration - Mail 01-20 からのデータベースの移行手順を次に示します。移行手順は、機能ごとに分けて説明します。

● サイズ表示機能を使用するための設定

Collaboration - Mail でサイズ表示機能を使用するため、データベースを拡張する必要があります。データベース環境を構築した場合、次の作業が必要です。

手順

1. HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、<Collaboration - Mail インストールディレクトリ>%sample%hptl_clb_cml_0120to0130.sql を実行して、サイズ表示機能のカラムデータを追加します。この際、接続ユーザ（認可識別子）を Collaboration - Mail で使用している接続ユーザ（認可識別子）に変更して実行してください。

！ 注意事項

Cosminexus DABroker Library に設定する「BLOB/LONG/CLOB 型データ受信バッファサイズグループの HiRDB 部分」を見直す必要があります。詳細は、マニュアル「Collaboration - Mail システム管理者ガイド」を参照してください。

● データベースへ高速にアクセスするための設定

Collaboration - Mail でデータベースへ高速にアクセスするために、次の作業が必要です。

手順

1. 次の操作を順に実行して、RD エリアを作成します。

- hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql の編集

<Collaboration - Mail インストールディレクトリ>%sample%hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql を、任意のワークディレクトリにコピーします。ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql を編集して、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を変更します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。

- ファイルシステムの空き容量の確認

既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認します。ファイルシステムに空き領域がない場合は、新しいファイルシステム領域を作成してください。

- hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql の実行

HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を使用して、ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql を実行し、RD エリアを作成します。この際、接続ユーザ（認可識別子）を Collaboration - Mail で使用している接続ユーザ（認可識別子）に変更して実行してください。

RD エリアを作成する前に、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の「RD エリアを追加する前に」の注意事項を確認してください。

2. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。

Collaboration - Mail では、グローバルバッファと RD エリアを 1 対 1 で割り当てる場合に HiRDB のシステム共通定義ファイルに追加する記述の例として、<Collaboration - Mail インストールディレクトリ>%sample%hptl_clb_cml_pdsys_shift_0150.txt を提供しています。

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

3. HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Mail インストールディレクトリ>%sample%hptl_clb_cml_tbl_idx_shift_0150.sql を実行し、追加となるインデックスを作成します。

「KFP11204-E Table/index/trigger aa....aa."bb....bb" not found in system」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Mail システム管理者ガイド」の「旧バージョンから移行する場合の設定」を参照してください。

(3) Collaboration - Mail 01-30 からの移行

Collaboration - Mail 01-30 からのデータベースの移行手順を次に示します。

Collaboration - Mail でデータベースへ高速にアクセスするために、次の作業が必要です。

手順

1. 次の操作を順に実行して、RD エリアを作成します。

- hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql の編集
 <Collaboration - Mail インストールディレクトリ>%sample%hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql を、任意のワークディレクトリにコピーします。ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql を編集して、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を変更します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。
- ファイルシステムの空き容量の確認
 既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認します。ファイルシステムに空き領域がない場合は、新しいファイルシステム領域を作成してください。
- hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql の実行
 HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を使用して、ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql を実行し、RD エリアを作成します。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Mail で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。
 RD エリアを作成する前に、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の「RD エリアを追加する前に」の注意事項を確認してください。

2. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。

Collaboration - Mail では、グローバルバッファと RD エリアを 1 対 1 で割り当てる場合に HiRDB のシステム共通定義ファイルに追加する記述の例として、<Collaboration - Mail インストールディレクトリ>%sample%hptl_clb_cml_pdsys_shift_0150.txt を提供しています。

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

3. HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Mail インストールディレクトリ>%sample%hptl_clb_cml_tbl_idx_shift_0150.sql を実行し、追加となるインデックスを作成します。

「KFP11204-E Table/index/trigger aa....aa."bb....bb" not found in system」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

3 データベースサーバの移行

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Mail システム管理者ガイド」の「旧バージョンから移行する場合の設定」を参照してください。

(4) Collaboration - Mail 01-32 からの移行

Collaboration - Mail 01-32 からのデータベースの移行手順を次に示します。

Collaboration - Mail でデータベースへ高速にアクセスするために、次の作業が必要です。

手順

1. 次の操作を順に実行して、RD エリアを作成します。

- hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql の編集
＜Collaboration - Mail インストールディレクトリ＞*sample*hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql を、任意のワークディレクトリにコピーします。ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql を編集して、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を変更します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。
- ファイルシステムの空き容量の確認
既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認します。ファイルシステムに空き領域がない場合は、新しいファイルシステム領域を作成してください。
- hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql の実行
HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を使用して、ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql を実行し、RD エリアを作成します。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Mail で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。
RD エリアを作成する前に、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の「RD エリアを追加する前に」の注意事項を確認してください。

2. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。

Collaboration - Mail では、グローバルバッファと RD エリアを 1 対 1 で割り当てる場合に HiRDB のシステム共通定義ファイルに追加する記述の例として、＜Collaboration - Mail インストールディレクトリ＞*sample*hptl_clb_cml_pdsys_shift_0150.txt を提供しています。

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

3. HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、＜Collaboration - Mail インストールディレクトリ＞*sample*hptl_clb_cml_tbl_idx_shift_0150.sql を実行し、追加となるインデクスを作成します。

「KFPAl1204-E Table/index/trigger aa....aa."bb....bb" not found in system」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Mail システム管理者ガイド」の「旧バージョンから移行する場合の設定」を参照してください。

(5) Collaboration - Mail 01-35 または 01-36 からの移行

Collaboration - Mail 01-35 または 01-36 からのデータベースの移行手順を次に示します。

Collaboration - Mail でデータベースへ高速にアクセスするために、次の作業が必要です。

手順

1. 次の操作を順に実行して、RD エリアを作成します。

- hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql の編集
 <Collaboration - Mail インストールディレクトリ>%sample%hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql を、任意のワークディレクトリにコピーします。ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql を編集して、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を変更します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。
- ファイルシステムの空き容量の確認
 既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ファイルシステムに空き領域があるかどうか確認します。ファイルシステムに空き領域がない場合は、新しいファイルシステム領域を作成してください。
- hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql の実行
 HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を使用して、ワークディレクトリにコピーした hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql を実行し、RD エリアを作成します。この際、接続ユーザ (認可識別子) を Collaboration - Mail で使用している接続ユーザ (認可識別子) に変更して実行してください。
 RD エリアを作成する前に、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の「RD エリアを追加する前に」の注意事項を確認してください。

2. HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。

Collaboration - Mail では、グローバルバッファと RD エリアを 1 対 1 で割り当てる場合に HiRDB のシステム共通定義ファイルに追加する記述の例として、<Collaboration - Mail インストールディレクトリ>%sample%hptl_clb_cml_pdsys_shift_0150.txt を提供しています。

詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

3. HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、<Collaboration - Mail インストールディレクトリ>%sample%hptl_clb_cml_tbl_idx_shift_0150.sql を実行し、追加となるインデックスを作成します。

「KFPAA11204-E Table/index/trigger aa....aa."bb....bb" not found in system」というメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration - Mail システム管理者ガイド」の「旧バージョンから移行する場合の設定」を参照してください。

(6) Collaboration - Mail 01-70, 01-71 または 01-82 からの移行

HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用してテーブルの定義を変更します。定義の変更には次のテーブル定義変更ファイルを使用してください。

Collaboration - Mail インストールディレクトリ%sample%hptl_clb_cml_tbl_def_update.sql

会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

4

ファイル共有の移行

この章では, Collaboration のファイル共有を移行する手順について説明します。

4.1 作業項目と製品のバージョンとの対応（ファイル共有の移行）

ここでは、この章で説明している、Collaboration のファイル共有機能を使用する環境を移行する場合に実施する作業が、どの製品のどのバージョンで実施する作業であるかについて説明します。

作業項目と製品のバージョンとの対応を次の表に示します。

表 4-1 作業項目と製品のバージョンとの対応（ファイル共有の移行）

作業項目	製品のバージョンによる作業の要否	参照先
	07-87 以前※1	
Collaboration - File Sharing の移行※2	○	4.2

(凡例)

○：必要な作業です。

注※1

07-87 以前とは、Groupmax Collaboration 07-10, 07-20, 07-30, 07-32, 07-35, 07-36, 07-50, 07-51, 07-52, 07-70, 07-71, 07-72, 07-82, 07-83, 07-84, 07-85, 07-86 および 07-87 のことです。

注※2

次の製品を使用している場合、Collaboration - File Sharing の移行作業は不要です。

- Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule

4.2 Collaboration - File Sharing の移行

Collaboration - File Sharing (ファイル共有機能) を使用するファイル共有サーバ、ファイル共有クライアント (アプリケーションサーバ)、データベースサーバを移行します。この作業は、すべてのバージョンの Collaboration の製品を移行する場合に実施します。なお、ファイル共有機能、ファイル共有サーバ、およびファイル共有クライアントについては、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」を参照してください。

対象製品

- Groupmax Collaboration 07-10 以降

旧バージョンの Collaboration - File Sharing から Collaboration - File Sharing 01-85 へ移行します。ここでは、バージョンごとに移行手順を説明します。

(1) Collaboration - File Sharing 01-10 からの移行

Collaboration - File Sharing 01-10 から移行する場合の手順について説明します。

手順

1. ファイル共有サーバで、メタ情報を追加します。
2. ファイル共有サーバで、クラス定義情報ファイルを設定します。
3. ファイル共有サーバで、ユーザ認証ライブラリ環境定義ファイルに、ディレクトリサーバの接続情報を追加します。
4. ファイル共有サーバで、DocumentSpace 構成定義ファイルに値を設定します。
5. ファイル共有クライアントで、グループフォルダ用の最大許容サイズ情報のデフォルト値を登録します。
グループフォルダを使用しない場合、または最大許容サイズ情報を設定しない運用の場合、この設定は不要です。
6. ファイル共有クライアントで、グループフォルダ用のベースパス情報のデフォルト値を登録します。
グループフォルダを使用しない場合にも必要な設定です。
7. 「(2) Collaboration - File Sharing 01-20 からの移行」の手順を実行します。
8. 「(3) Collaboration - File Sharing 01-30 からの移行」の手順を実行します。
9. 「(4) Collaboration - File Sharing 01-32 からの移行」の手順を実行します。
10. 「(5) Collaboration - File Sharing 01-35 または 01-36 からの移行」の手順を実行します。
11. 「(6) Collaboration - File Sharing 01-50, 01-52 または 01-70 からの移行」の手順を実行します。
12. 「(7) Collaboration - File Sharing 01-82 からの移行」の手順を実行します。

移行手順の詳細は、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「File Sharing 01-10 からの移行手順」を参照してください。

! 注意事項

マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「File Sharing 01-10 からの移行手順」に記載されている、環境設定用プロパティファイル (hptl_clb_cfs.properties) の設定作業は、「2.3.2 運用ディレクトリの設定」で設定内容を見直し済みであれば、不要です。

(2) Collaboration - File Sharing 01-20 からの移行

Collaboration - File Sharing 01-20 から移行する場合の手順について説明します。

Collaboration - File Sharing 01-30 以降の製品へ移行する場合に、[ファイル共有] ポートレットで日本語および英語だけを使用する運用にしたいときは、文書空間の文字コード種別に Shift-JIS を設定する必要があります。日本語および英語以外の言語も使用する運用にしたいときは、文書空間の文字コード種別に UTF-8 を設定する必要があります。

ファイル共有サーバの移行では、移行後に設定する文字空間の文字コード種別によって、次のどちらかの移行手順を実行します。

- 文書空間の文字コード種別に Shift-JIS を設定する場合の移行手順
- 文書空間の文字コード種別に UTF-8 を設定する場合の移行手順

(a) 文書空間の文字コード種別に Shift-JIS を設定する場合の移行手順

文書空間の文字コード種別に Shift-JIS を設定する場合は、次の作業が必要です。

移行手順を次に示します。

手順

1. ファイル共有サーバで、メタ情報のバックアップを取得します。
2. データベースサーバで、データベースのバックアップを取得します。
3. データベースサーバで、データベースサーバ (HiRDB) のシステム共通定義を設定します。
4. ファイル共有サーバで、メタ情報を追加します。
5. ファイル共有サーバを新規に構築したときにシステム導入支援機能を使用したかどうかを確認します。
6. データベースサーバで、表データをアンロードします。
7. データベースサーバで、表中の行を削除します。
8. ファイル共有サーバで、メタ情報を削除します。
9. ファイル共有サーバで、変更するメタ情報を追加します。
10. データベースサーバで、列の定義長を変更します。
11. データベースサーバで、cfsProp_Type 列に定義されたインデクスを削除します。
12. ファイル共有サーバで、表および列の定義を確認します。
13. データベースサーバで、表データをリロードします。
14. ファイル共有サーバで、クラス定義情報ファイルを設定します。
15. データベースサーバで、排他制御用プールサイズを確認します。
16. データベースサーバで、cfsProp_Language に空文字を設定します。
17. データベースサーバで、名前 (英語) に「default」または「No Name」が設定されているファイルおよびフォルダについて、名前 (英語) の設定値を名前の設定値で置換します。
18. ファイル共有サーバで、DocumentSpace 構成定義ファイルに値を設定します。
19. ファイル共有サーバを起動します。
20. ファイル共有クライアントで、ベースパス情報の最大使用可能容量および状態のプロパティにデータを登録します。

21. [(3) Collaboration - File Sharing 01-30 からの移行] の手順を実行します。
22. [(4) Collaboration - File Sharing 01-32 からの移行] の手順を実行します。
23. [(5) Collaboration - File Sharing 01-35 または 01-36 からの移行] の手順を実行します。
24. [(6) Collaboration - File Sharing 01-50, 01-52 または 01-70 からの移行] の手順を実行します。
25. [(7) Collaboration - File Sharing 01-82 からの移行] の手順を実行します。

移行手順の詳細は、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「File Sharing 01-20 からの移行手順」を参照してください。

! 注意事項

マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「File Sharing 01-20 からの移行手順」に記載されている、環境設定用プロパティファイル (hptl_clb_cfs.properties) の設定作業は、「2.3.2 運用ディレクトリの設定」で設定内容を見直し済みであれば、不要です。

(b) 文書空間の文字コード種別に UTF-8 を設定する場合の移行手順

文書空間の文字コード種別に UTF-8 を設定する場合の移行手順については、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「File Sharing 01-20 からの移行手順」を参照してください。

(3) Collaboration - File Sharing 01-30 からの移行

Collaboration - File Sharing 01-30 から移行する場合の手順について説明します。

手順

1. データベースサーバで、データベースのバックアップを取得します。
2. データベースサーバで、cfsProp_EntityName 列に定義されたインデックスを削除します。
3. データベースサーバで、cfsProp_EntityName 列と cfsProp_Type 列に複数列インデックスを定義します。
4. ファイル共有サーバで、ユーザ認証ライブラリ環境定義ファイルに、ディレクトリサーバの接続情報および共通情報を追加します。
5. [(4) Collaboration - File Sharing 01-32 からの移行] の手順を実行します。
6. [(5) Collaboration - File Sharing 01-35 または 01-36 からの移行] の手順を実行します。
7. [(6) Collaboration - File Sharing 01-50, 01-52 または 01-70 からの移行] の手順を実行します。
8. [(7) Collaboration - File Sharing 01-82 からの移行] の手順を実行します。

移行手順の詳細は、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「File Sharing 01-30 からの移行手順」を参照してください。

! 注意事項

マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「File Sharing 01-30 からの移行手順」に記載されている、環境設定用プロパティファイル (hptl_clb_cfs.properties) の設定作業は、「2.3.2 運用ディレクトリの設定」で設定内容を見直し済みであれば、不要です。

参考

[ファイル共有] ポートレットで日本語および英語以外の言語も使用する運用にしたい場合は、文書空間の文字コード種別に UTF-8 を設定する必要があります。文書空間の文字コード種別を Shift-JIS から UTF-8 に変更す

る手順については、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「文書空間の文字コード種別を Shift-JIS から UTF-8 に変更する手順」を参照してください。

(4) Collaboration - File Sharing 01-32 からの移行

Collaboration - File Sharing 01-32 から移行する場合の手順について説明します。

手順

1. データベースサーバで、データベースのバックアップを取得します。
2. データベースサーバで、`cfsProp_Identifier` 列にインデクスを定義します。
3. 「(5) Collaboration - File Sharing 01-35 または 01-36 からの移行」の手順を実行します。
4. 「(6) Collaboration - File Sharing 01-50, 01-52 または 01-70 からの移行」の手順を実行します。
5. 「(7) Collaboration - File Sharing 01-82 からの移行」の手順を実行します。

移行手順の詳細は、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「File Sharing 01-32 からの移行手順」を参照してください。

！ 注意事項

マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「File Sharing 01-32 からの移行手順」に記載されている、環境設定用プロパティファイル (`hptl_clb_cfs.properties`) の設定作業は、「2.3.2 運用ディレクトリの設定」で設定内容を見直し済みであれば、不要です。

参考

【ファイル共有】ポートレットで日本語および英語以外の言語も使用する運用にしたい場合は、文書空間の文字コード種別に UTF-8 を設定する必要があります。文書空間の文字コード種別を Shift-JIS から UTF-8 に変更する手順については、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「文書空間の文字コード種別を Shift-JIS から UTF-8 に変更する手順」を参照してください。

(5) Collaboration - File Sharing 01-35 または 01-36 からの移行

Collaboration - File Sharing 01-35 または 01-36 から移行する場合の手順について説明します。

手順

1. ファイル共有サーバで、メタ情報のバックアップを取得します。
2. データベースサーバで、データベースのバックアップを取得します。
3. ファイル共有サーバで、メタ情報を追加します。
4. ファイル共有サーバで、クラス定義情報ファイルを設定します。
5. 「(6) Collaboration - File Sharing 01-50, 01-52 または 01-70 からの移行」の手順を実行します。
6. 「(7) Collaboration - File Sharing 01-82 からの移行」の手順を実行します。

移行手順の詳細は、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「File Sharing 01-35 または 01-36 からの移行手順」を参照してください。

参考

【ファイル共有】ポートレットで日本語および英語以外の言語も使用する運用にしたい場合は、文書空間の文字コード種別に UTF-8 を設定する必要があります。文書空間の文字コード種別を Shift-JIS から UTF-8 に変更す

る手順については、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「文書空間の文字コード種別を Shift-JIS から UTF-8 に変更する手順」を参照してください。

(6) Collaboration - File Sharing 01-50, 01-52 または 01-70 からの移行

Collaboration - File Sharing 01-50, 01-52 または 01-70 から移行する場合の手順について説明します。

手順

1. ファイル共有サーバで、環境変数 PATH を確認します。
2. 「(7) Collaboration - File Sharing 01-82 からの移行」の手順を実行します。

移行手順の詳細は、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「File Sharing 01-50, 01-52 または 01-70 からの移行手順」を参照してください。

参考

[ファイル共有] ポートレットで日本語および英語以外の言語も使用する運用にしたい場合は、文書空間の文字コード種別に UTF-8 を設定する必要があります。文書空間の文字コード種別を Shift-JIS から UTF-8 に変更する手順については、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「文書空間の文字コード種別を Shift-JIS から UTF-8 に変更する手順」を参照してください。

(7) Collaboration - File Sharing 01-82 からの移行

Collaboration - File Sharing 01-82 から移行する場合の手順について説明します。

手順

1. File Sharing サーバで、メタ情報のバックアップを取得します。
2. データベースサーバで、データベースのバックアップを取得します。
3. File Sharing サーバで、メタ情報を追加します。
4. File Sharing サーバで、クラス定義情報ファイルを設定します。
5. データベースサーバで、アクセス日時を更新します。
6. データベースサーバで、削除日時および振り分けルールを設定します。

移行手順の詳細は、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「File Sharing 01-82 からの移行手順」を参照してください。

参考

[ファイル共有] ポートレットで日本語および英語以外の言語も使用する運用にしたい場合は、文書空間の文字コード種別に UTF-8 を設定する必要があります。文書空間の文字コード種別を Shift-JIS から UTF-8 に変更する手順については、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の「文書空間の文字コード種別を Shift-JIS から UTF-8 に変更する手順」を参照してください。

5

アプリケーションサーバの移行

この章では, Collaboration の各ポートレットを使用するポータル¹の運用サーバである, アプリケーションサーバを移行する手順について説明します。各ポートレットの詳細は, マニュアル「Collaboration ユーザーズガイド」を参照してください。

5.1 旧バージョンの uCosminexus Portal Framework からの移行

旧バージョンの uCosminexus Portal Framework - Light から uCosminexus Portal Framework 09-00 に移行します。この作業は、次に示すバージョンの製品を移行する場合に実施します。

対象製品

- Groupmax Collaboration 07-50 以降
※ 07-36 以前からの移行を行う場合はお問い合わせください。

ここでは、旧バージョンの uCosminexus Portal Framework - Light からの移行手順について説明します。

参考

Collaboration の製品のバージョンと、uCosminexus Portal Framework のバージョンの対応については、「付録 B Collaboration の製品と uCosminexus Portal Framework のバージョンの対応」を参照してください。

手順

1. Portal Manager のセットアップを実行します。

Portal Manager のセットアップ方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」の「Portal Manager のセットアップ」を参照してください。

2. 移行前に使っていた設定ファイルをコピーします。

「2.2.4(2) uCosminexus Portal Framework」の手順 1. でバックアップしたディレクトリのうち、次のディレクトリをそれぞれ移行後環境のディレクトリに上書きコピーします。

- 設定ファイル格納ディレクトリ
- ポートレット配置情報ファイルディレクトリ
- Portal Manager 設定ファイルディレクトリ

なお、バックアップ元ディレクトリが<uCosminexus Portal Framework - Light インストールディレクトリ>下であった場合は、コピー先を<uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ>下としてください。

3. Web アプリケーション DD (web.xml) を編集します。

web.xml は次に示すディレクトリに格納されています。

<PROJECT_HOME> (<Collaboration インストールディレクトリ>¥deploy_work) ¥WEB-INF

web.xml で定義している jetspeed サブレットのプロパティ値の TurbineResources.properties ファイルを指定しているパスを、<設定ファイル格納ディレクトリ>下に変更します。パス区切り文字は「/」を使用してください。

<設定ファイル格納ディレクトリ>が「C:¥Hitachi¥CosmiPortal¥conf」の場合の設定例を次に示します。太字部分を変更してください。

```
<servlet>
  <servlet-name>
    jetspeed
  </servlet-name>
  <servlet-class>
    org.apache.turbine.Turbine
  </servlet-class>
  <init-param>
    <param-name>properties</param-name>
    <param-value>
```

```

    C:/Hitachi/CosmiPortal/conf/TurbineResources.properties
  </param-value>
</init-param>
  :
  :
</servlet>

```

4. PortalResources.properties に、必要な情報を設定します。

手順 3. でコピーしたファイルの設定を、インストール環境に合わせて修正します。

PortalResources.properties は、次のディレクトリに格納されています。

<uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ>%conf

PortalResources.properties で修正する内容を次に示します。

以下の太字部分を変更してください。

```

jp.co.hitachi.soft.portal.access.psml.dir=<ポートレット配置情報ファイルディレクトリ>
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceFile=<uCosminexus Portal Frameworkインストールディレ
クトリ>/log/portal
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.security.FileName=<uCosminexus Portal Frameworkインス
トールディレクトリ>/log/security
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.TraceFileAccess=<uCosminexus Portal Frameworkインス
トールディレクトリ>/log/access
jp.co.hitachi.soft.portal.api.log.application.FileName=<uCosminexus Portal Frameworkインス
トールディレクトリ>/log/application
jp.co.hitachi.soft.portal.util.log.auditlog.FileName=<uCosminexus Portal Frameworkインス
トールディレクトリ>/log/audit

```

5. usrconf.cfg の設定を変更します。

usrconf.cfg は、次のディレクトリに格納されています。

<Cosminexus インストールディレクトリ>%CC%server%usrconf%ejb%<サーバ名称>%

usrconf.cfg で修正する内容を次に示します。

以下の太字部分を変更してください。

```

add.class.path=<uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ>/lib/castor.jar
add.class.path=<uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ>/lib/ecs.jar
add.class.path=<uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ>/lib/hitachiportal.jar
add.class.path=<uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ>/lib/jakarta-oro.jar
add.class.path=<uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ>/lib/
portletwebsolib.jar
add.class.path=<uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ>/lib/velocity.jar
add.class.path=<uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ>/lib/village.jar
add.class.path=<uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ>/lib/portlet.jar
add.class.path=<uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ>/conf
add.class.path=<uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ>/xsd

```

6. セキュリティポリシーファイル (server.policy) の設定を変更します。

セキュリティポリシーファイルは、次のディレクトリに格納されています。

<Cosminexus インストールディレクトリ>%CC%server%usrconf%ejb%<サーバ名称>%

以下の太字部分を変更してください。

```

grant codeBase
"file:<uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ>/lib/*"{
  permission java.lang.RuntimePermission "charsetProvider";
  permission java.lang.RuntimePermission "setFactory";
  permission java.lang.RuntimePermission "accessClassInPackage.sun.misc";
  permission java.lang.RuntimePermission "loadLibrary.*";
  permission java.lang.RuntimePermission "queuePrintJob";
  permission java.lang.RuntimePermission "accessDeclaredMembers";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThread";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThreadGroup";
  permission java.lang.RuntimePermission "stopThread";
  permission java.net.SocketPermission "*, "connect";
  permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>", "read,write,delete";
  permission java.lang.reflect.ReflectPermission "suppressAccessChecks";
  permission java.util.PropertyPermission "*, "read, write";
  permission javax.security.auth.AuthPermission "createLoginContext.Portal";
};

```

5.2 uCosminexus Portal Framework の設定

移行後の uCosminexus Portal Framework で Portal Manager などを使用して、ポートレットのデプロイ、マッピング情報の削除などを実施します。この作業は、次に示すバージョンの製品を移行する場合に実施します。

対象製品

- Groupmax Collaboration 07-10 以降

ここでは、uCosminexus Portal Framework の設定手順について説明します。

参考

Collaboration の製品のバージョンと、uCosminexus Portal Framework のバージョンの対応については、「付録 B Collaboration の製品と uCosminexus Portal Framework のバージョンの対応」を参照してください。

手順

1. Portal Manager または uCosminexus Portal Framework のコマンドを使用して、ポータルプロジェクトにポートレットをデプロイします。
各プログラムで提供されるすべての par ファイルを、ポータルプロジェクトにデプロイします。
ポートレットのデプロイ方法については、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」の「ポートレットのデプロイ」を参照してください。
2. Portal Manager を使用して、uCosminexus Portal Framework にユーザ情報のマッピングとして定義されている定義項目を削除します。

! 注意事項

uCosminexus Portal Framework 06-30 (Groupmax Collaboration 07-30) 以降から移行する場合、この作業は不要です。

削除する定義項目を次に示します。

- hptl_clb_user_name
- hptl_clb_user_name_en
- hptl_clb_job_title
- hptl_clb_job_title_en
- hptl_clb_email_address
- hptl_clb_org_name
- hptl_clb_org_name_en
- hptl_clb_tel_number

ユーザ情報のマッピング定義の削除方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」の「マッピング情報の一括削除」を参照してください。

3. Portal Manager を使用して、uCosminexus Portal Framework に定義されている組織情報のマッピングを削除します。

! 注意事項

uCosminexus Portal Framework 06-30 (Groupmax Collaboration 07-30) 以降から移行する場合、この作業は不要です。

組織情報のマッピングの削除は、[電子掲示板] ポートレットのアクセス権を設定するために実施します。このため、uCosminexus Portal Framework のポートレットのアクセス制御で参照しているなど、組織情報をほかの目的でも使用している場合は、組織情報のマッピングを削除しないでください。

組織情報のマッピング定義の削除方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」の「マッピング情報の一括削除」を参照してください。

4. Portal Manager を使用して、運用管理者を設定します。

運用管理者の設定方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」の「運用管理者の設定」を参照してください。

5.3 ポートレットの設定の変更

各ポートレットの設定を変更します。この作業は、次に示すバージョンの製品を移行する場合に実施します。

対象製品

- Groupmax Collaboration 07-10 以降

ここでは、バージョンごとにポートレットの設定を変更する手順を説明します。

(1) Groupmax Collaboration 07-10 からの移行

Groupmax Collaboration 07-10 から移行する場合に、ポートレットの設定を変更する手順について説明します。

手順

1. 退避した<Collaboration インストールディレクトリ>%clb_home の内容、および各コンポーネントのマニュアルを参照して、各ポートレットのプロパティを設定します。

2. [電子会議室] ポートレットの frmcmdsetup コマンドを、次のように実行します。

```
frmcmdsetup
```

3. [電子会議室] ポートレットのシステムパラメタの値を反映するために、[電子会議室] ポートレットのシステムパラメタ変更コマンド (frmsys コマンド) を、次のように実行します。

```
frmsys -f
```

複数のアプリケーションサーバを移行する場合でも、この手順は 1 回だけ実行してください。

4. 次の作業を順に実行して、レコードの更新と設定を行います。

- hptl_clb_cfr_command.properties の編集

<Collaboration の運用ディレクトリ>%conf%hptl_clb_cfr_command.properties を編集して、データベースサーバへの接続設定を行います。

リバースプロキシを使用する場合は、hptl_clb_cfr_command.properties に、「変換前文字列 (hptl_clb_cfr_shift0130_before_convert_string)」と「変換後文字列 (hptl_clb_cfr_shift0130_after_convert_string)」を指定する必要があります。

- hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat の準備

<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat を <Collaboration の運用ディレクトリ>%bin にコピーします。

- hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat の実行

リバースプロキシを使用しない場合は、<Collaboration の運用ディレクトリ>%bin %hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat を、次のように実行します。

```
hptl_clb_cfr_db_shift_0130 -m
```

リバースプロキシを使用する場合は、<Collaboration の運用ディレクトリ>%bin %hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat を、次のように実行します。

```
hptl_clb_cfr_db_shift_0130
```

複数のアプリケーションサーバを移行する場合でも、これらの作業は 1 回だけ実行してください。

5. [電子掲示板] ポートレットの cbbcmdsetup コマンドを実行します。

```
cbbcmdsetup
```

6. [電子掲示板] ポートレットのシステムパラメタの値を反映するために、[電子掲示板] ポートレットのシステムパラメタ変更コマンド (cbbsys コマンド) を実行します。

```
cbbsys -f
```

複数のアプリケーションサーバを移行する場合でも、この手順は 1 回だけ実行してください。

[電子会議室] ポートレットのコマンドについては、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」を、[電子掲示板] ポートレットのコマンドについては、マニュアル「Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド」を参照してください。

! 注意事項

[電子会議室] ポートレットおよび [電子掲示板] ポートレットでは、メモリ使用量の改善のため、[電子会議室] ポートレットのプロパティファイル (hptl_clb_cfr_command.properties) および [電子掲示板] ポートレットのプロパティファイル (hptl_clb_cbb_command.properties) に指定されている DABroker のデータ受信バッファサイズ (dab_buffsize) の初期値が変更されています。

この変更に伴って、Cosminexus DABroker Library に設定する「BLOB/LONG/CLOB 型データ受信バッファサイズグループの HiRDB 部分」、およびアプリケーションサーバのリソースアダプタに設定する「bufSize」、およびユティリティコマンドで JDBC ドライバの URL に設定する「BUF_SIZE」を見直す必要があります。詳細は、各ポートレットのマニュアルを参照してください。

Collaboration を移行して、SSL アクセラレータまたはリバースプロキシを導入する場合は、導入手順については、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」の「SSL アクセラレータまたはリバースプロキシに対応する場合の設定」を参照してください。なお、導入する場合、電子会議室を使用するときの注意事項があります。詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」の「SSL アクセラレータまたはリバースプロキシ使用時の注意事項」を参照してください。

(2) Groupmax Collaboration 07-20 からの移行

Groupmax Collaboration 07-20 から移行する場合に、ポートレットの設定を変更する手順について説明します。

手順

1. 退避した<Collaboration インストールディレクトリ>%clb_home の内容、および各コンポーネントのマニュアルを参照して、各ポートレットのプロパティを設定します。
2. [電子会議室] ポートレットの frmcmdsetup コマンドを、次のように実行します。

```
frmcmdsetup
```

3. [電子会議室] ポートレットのシステムパラメタの値を反映するために、[電子会議室] ポートレットのシステムパラメタ変更コマンド (frmsys コマンド) を、次のように実行します。

```
frmsys -f
```

複数のアプリケーションサーバを移行する場合でも、この手順は 1 回だけ実行してください。

4. 次の作業を順に実行して、レコードの更新と設定を行います。

- hptl_clb_cfr_command.properties の編集
 <Collaboration の運用ディレクトリ>%conf%hptl_clb_cfr_command.properties を編集して、データベースサーバへの接続設定を行います。
 リバースプロキシを使用する場合は、hptl_clb_cfr_command.properties に、「変換前文字列 (hptl_clb_cfr_shift0130_before_convert_string)」と「変換後文字列 (hptl_clb_cfr_shift0130_after_convert_string)」を指定する必要があります。
- hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat の準備

<Collaboration - Forum インストールディレクトリ>%sys%hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat を
<Collaboration の運用ディレクトリ>%bin にコピーします。

- hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat の実行

リバースプロキシを使用しない場合は、<Collaboration の運用ディレクトリ>%bin
%hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat を、次のように実行します。

```
hptl_clb_cfr_db_shift_0130 -m
```

リバースプロキシを使用する場合は、<Collaboration の運用ディレクトリ>%bin
%hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat を、次のように実行します。

```
hptl_clb_cfr_db_shift_0130
```

複数のアプリケーションサーバを移行する場合でも、これらの作業は 1 回だけ実行してください。

5. [電子掲示板] ポートレットの cbbcmdsetup コマンドを実行します。

```
cbbcmdsetup
```

6. [電子掲示板] ポートレットのシステムパラメタの値を反映するために、[電子掲示板] ポートレットのシステムパラメタ変更コマンド (cbbsys コマンド) を実行します。

```
cbbsys -f
```

複数のアプリケーションサーバを移行する場合でも、この手順は 1 回だけ実行してください。

[電子会議室] ポートレットのコマンドについては、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」を、[電子掲示板] ポートレットのコマンドについては、マニュアル「Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド」を参照してください。

! 注意事項

[電子会議室] ポートレットおよび [電子掲示板] ポートレットでは、メモリ使用量の改善のため、[電子会議室] ポートレットのプロパティファイル (hptl_clb_cfr_command.properties) および [電子掲示板] ポートレットのプロパティファイル (hptl_clb_cbb_command.properties) に指定されている DABroker のデータ受信バッファサイズ (dab_buffsize) の初期値が変更されています。

この変更に伴って、Cosminexus DABroker Library の設定内容の「BLOB/LONG/CLOB 型データ受信バッファサイズグループの HiRDB 部分」、およびアプリケーションサーバのリソースアダプタに設定する [bufSize] を見直す必要があります。詳細は、各ポートレットのマニュアルを参照してください。

この変更に伴って、Cosminexus DABroker Library に設定する「BLOB/LONG/CLOB 型データ受信バッファサイズグループの HiRDB 部分」、アプリケーションサーバのリソースアダプタに設定する [bufSize]、およびユティリティコマンドで JDBC ドライバの URL に設定する「BUF_SIZE」を見直す必要があります。詳細は、各ポートレットのマニュアルを参照してください。

Collaboration を移行して、SSL アクセラレータまたはリバースプロキシを導入する場合、導入手順については、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」の「SSL アクセラレータまたはリバースプロキシに対応する場合の設定」を参照してください。なお、導入する場合、電子会議室を使用するときの注意事項があります。詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」の「SSL アクセラレータまたはリバースプロキシ使用時の注意事項」を参照してください。

(3) Groupmax Collaboration 07-30 からの移行

Groupmax Collaboration 07-30 から移行する場合に、ポートレットの設定を変更する手順について説明します。

手順

1. 退避した<Collaboration インストールディレクトリ>%clb_home の内容、および各コンポーネントのマニュアルを参照して、各ポートレットのプロパティを設定します。
2. [電子会議室] ポートレットの frmcmdsetup コマンドを、次のように実行します。

```
frmcmdsetup
```

3. [電子会議室] ポートレットのシステムパラメタの値を反映するために、[電子会議室] ポートレットのシステムパラメタ変更コマンド (frmsys コマンド) を、次のように実行します。

```
frmsys -f
```

複数のアプリケーションサーバを移行する場合でも、この手順は1回だけ実行してください。

4. [電子掲示板] ポートレットの cbbcsetup コマンドを、次のように実行します。

```
cbbcsetup
```

5. [電子掲示板] ポートレットのシステムパラメタの値を反映するために、[電子掲示板] ポートレットのシステムパラメタ変更コマンド (cbbsys コマンド) を、次のように実行します。

```
cbbsys -f
```

複数のアプリケーションサーバを移行する場合でも、この手順は1回だけ実行してください。

[電子会議室] ポートレットのコマンドについては、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」を、[電子掲示板] ポートレットのコマンドについては、マニュアル「Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド」を参照してください。

! 注意事項

Cosminexus DABroker Library に設定する「BLOB/LONG/CLOB 型データ受信バッファサイズグループの HiRDB 部分」、アプリケーションサーバのリソースアダプタに設定する「bufSize」、およびユティリティコマンドで JDBC ドライバの URL に設定する「BUF_SIZE」を見直す必要があります。詳細は、各ポートレットのマニュアルを参照してください。

Collaboration を移行して、SSL アクセラレータまたはリバースプロキシを導入する場合、導入手順については、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」の「SSL アクセラレータまたはリバースプロキシに対応する場合の設定」を参照してください。なお、導入する場合、電子会議室を使用するときの注意事項があります。詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」の「SSL アクセラレータまたはリバースプロキシ使用時の注意事項」を参照してください。

(4) Groupmax Collaboration 07-32 以降からの移行

Groupmax Collaboration 07-32 以降から移行する場合に、ポートレットの設定を変更する手順について説明します。

手順

1. 退避した<Collaboration インストールディレクトリ>¥clb_home の内容、および各コンポーネントのマニュアルを参照して、各ポートレットのプロパティを設定します。

! 注意事項

Collaboration を移行して、SSL アクセラレータまたはリバースプロキシを導入する場合、導入手順については、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」の「SSL アクセラレータまたはリバースプロキシに対応する場合の設定」を参照してください。なお、導入する場合、電子会議室を使用するときの注意事項があります。詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」の「SSL アクセラレータまたはリバースプロキシ使用時の注意事項」を参照してください。

(5) Groupmax Collaboration 07-71 以降からの移行

Groupmax Collaboration 07-71 以降から移行する場合に、ポートレットの設定を変更する手順について説明します。

手順

1. 退避した<Collaboration インストールディレクトリ>¥clb_home の内容、および各コンポーネントのマニュアルを参照して、各ポートレットのプロパティを設定します。

Collaboration の [環境設定] 画面からのダウンロードにより配布している場合

共通プロパティファイル (hptl_clb_ccu.properties) の hptl_clb_ccu_dragAndDropDownload プロパティを「On」に設定している場合、hptl_clb_ccu_dragAndDropInstallerURL プロパティに設定しているリンク先に、<Collaboration インストールディレクトリ>¥common¥ActiveX¥DragAndDrop 以下にインストールされる setup.exe を再配置する必要があります。

Collaboration の [環境設定] 画面からのダウンロードにより配布していない場合

配布元の setup.exe を<Collaboration インストールディレクトリ>¥common¥ActiveX ¥DragAndDrop 以下にインストールされる setup.exe に上書きしてください。

! 注意事項

Collaboration を移行して、SSL アクセラレータまたはリバースプロキシを導入する場合、導入手順については、マニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」の「SSL アクセラレータまたはリバースプロキシに対応する場合の設定」を参照してください。なお、導入する場合、電子会議室を使用するときの注意事項があります。詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」の「SSL アクセラレータまたはリバースプロキシ使用時の注意事項」を参照してください。

5.4 ポータルプロジェクトの組み込み

ポータルプロジェクトを J2EE サーバに組み込みます。この作業は、次に示すバージョンの製品を移行する場合に実施します。

対象製品

- Groupmax Collaboration 07-10 以降

ここでは、ポータルプロジェクトを J2EE サーバに組み込む手順について説明します。

手順

1. ポータルプロジェクトの WAR ファイルを作成します。
2. J2EE サーバを起動します。
3. 既存の J2EE アプリケーションを停止します。
4. 既存の J2EE アプリケーションを削除します。
5. J2EE サーバにインポートされている既存の WAR ファイルを削除します。
6. 手順 1. で作成した WAR ファイルをインポートします。
7. J2EE アプリケーションを新規作成して、アプリケーション統合属性ファイルを取得します。
J2EE アプリケーションを新規作成して、インポートした WAR ファイルを追加します。J2EE アプリケーションを新規作成したら、アプリケーション統合属性ファイルを取得します。
8. J2EE アプリケーションの属性を編集します。
アプリケーション統合属性ファイルをテキストエディタで編集します。
9. 手順 8. で設定した項目を J2EE アプリケーションの属性に反映します。
10. J2EE アプリケーションを開始します。

ポータルプロジェクトの組み込み手順の詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」の「ポータルプロジェクトの組み込み」を参照してください。

5.5 Web サーバの設定

Web サーバでは、Web サーバからの静的コンテンツの直接取得や、アクセス数増加への対応などの設定を実施します。この作業は、次に示すバージョンの製品を移行する場合に実施します。

対象製品

- Groupmax Collaboration 07-10 以降

ここでは、次の設定について、バージョンごとに設定手順を説明します。

- 静的コンテンツを Web サーバから直接取得するための設定
- アクセス数の増加に対応するための設定

(1) Groupmax Collaboration 07-10 からの移行

Groupmax Collaboration 07-10 から移行する場合に、Web サーバで設定する手順について説明します。

(a) 静的コンテンツを Web サーバから直接取得するための設定

HTML や画像ファイルなどの静的なコンテンツを、アプリケーションサーバを経由して取得するとレスポンスタイムが低下します。これを回避するには、次の手順で、静的コンテンツを Web サーバから直接取得するようにバイパスを設定してください。

手順

1. 静的コンテンツをコピーします。

xcopy コマンドを実行して、<Collaboration インストールディレクトリ>%deploy_work から静的コンテンツだけを抜き出し、<Collaboration インストールディレクトリ>%clb_home%public にコピーします。

コピーする静的コンテンツのファイルの拡張子は、[.gif]、[.png]、[.html]、[.htm]、[.js]、[.css] です。

Collaboration を d:%hitachi%collaboration にインストールした場合、次のようにコマンドを実行します（Collaboration をインストールしたディレクトリに合わせて、コマンドを変更して実行してください）。

```
xcopy d:%hitachi%collaboration%deploy_work%*.gif d:%hitachi%collaboration%clb_home
%public /S /Q /I /K /Y /R
xcopy d:%hitachi%collaboration%deploy_work%*.png d:%hitachi%collaboration%clb_home
%public /S /Q /I /K /Y /R
xcopy d:%hitachi%collaboration%deploy_work%*.html d:%hitachi%collaboration%clb_home
%public /S /Q /I /K /Y /R
xcopy d:%hitachi%collaboration%deploy_work%*.htm d:%hitachi%collaboration%clb_home
%public /S /Q /I /K /Y /R
xcopy d:%hitachi%collaboration%deploy_work%*.js d:%hitachi%collaboration%clb_home
%public /S /Q /I /K /Y /R
xcopy d:%hitachi%collaboration%deploy_work%*.css d:%hitachi%collaboration%clb_home
%public /S /Q /I /K /Y /R
```

なお、一度静的コンテンツをコピーしても、<PROJECT_HOME> (<Collaboration インストールディレクトリ>%deploy_work) の内容を変更した場合は、再度この手順を実行し変更された静的コンテンツを反映する必要があります。

2. 静的コンテンツに対応する仮想ディレクトリを作成します。

エイリアスにコンテキストルート名を、接続先に静的コンテンツをコピーしたディレクトリ (<Collaboration インストールディレクトリ>%clb_home%public) を指定して、仮想ディレクトリを作成します。

Collaboration のインストールディレクトリが d:¥hitachi¥collaboration, コンテキストルートが/Portal, Web サーバが Hitachi Web Server の場合, httpsd.conf に次のように設定します。

```
Alias /Portal "D:/Hitachi/Collaboration/clb_home/public"
```

3. 次の URL パターンをワーカーに振り分けるように, リダイレクタを設定します。

```
</コンテキストルート>/portal/*
</コンテキストルート>/*.jsp
</コンテキストルート>/js/csdc.js
```

設定例

コンテキストルートが Portal, ワーカー名が worker1, Web サーバが Hitachi Web Server の場合, mod_jk.conf には次のように設定します。

```
JkMount /Portal/portal/* worker1
JkMount /Portal/*.jsp worker1
JkMount /Portal/js/csdc.js worker1
```

4. Hitachi Web Server を再起動します。

(b) アクセス数の増加に対応するための設定

利用者のアクセス数が多いと, 次のような問題が発生します。

- サーバスレッド数が少ないと, レスポンスが低下します。
- ログの出力量が増え, ディスク使用量が増加します。

これらの問題を回避するには, Web サーバで, サーバスレッド数のディレクティブや, ログに関するディレクティブの設定値を変更します。Cosminexus のインストールディレクトリが d:¥hitachi¥cosminexus, Web サーバが Hitachi Web Server の場合の設定例を次に示します。

手順

1. httpsd.conf で, 次のディレクティブを設定します。

- ThreadsPerChild および KeepAliveTimeout ディレクティブ
ThreadsPerChild を 500, KeepAliveTimeout を 3 に設定します。
この値は, アプリケーションサーバ 1 台あたり 500 人で利用した場合の推奨値です。アクセス数が多い場合や, 利用人数が多い場合は, KeepAliveTimeout の値を「1」や「2」など小さい値に変更してください。
- ErrorLog, LogFormat および CustomLog ディレクティブ
アクセスログやエラーログをログファイルサイズで分割して, 複数のファイルにラップアラウンドして出力するように設定します。
- LoadModule, <Directory>, ExpiresActive および ExpiresByType ディレクティブ
静的コンテンツに対して有効期限を設定します。静的コンテンツが有効期限内の場合, クライアントからの静的コンテンツに対するリクエストは, Web ブラウザのキャッシュを利用するようになり, Web サーバへのリクエスト数が減少します。

設定例

```
ThreadsPerChild 500
KeepAliveTimeout 3
ErrorLog "|¥D:/Hitachi/Cosminexus/httpsd/sbin/rotatelog2.exe D:/Hitachi/Cosminexus/httpsd/logs/errorlog 102400 5¥"
LogFormat "%h %l %u %t %T ¥"r¥" %s %b" common
CustomLog "|¥D:/Hitachi/Cosminexus/httpsd/sbin/rotatelog2.exe D:/Hitachi/Cosminexus/httpsd/logs/access 51200 5¥" common
LoadModule expires_module modules/mod_expires.so
<Directory "D:/Hitachi/Collaboration/clb_home/public">
```

```
ExpiresActive On
ExpiresByType text/html A3600
ExpiresByType image/gif A3600
ExpiresByType image/png A3600
ExpiresByType application/x-javascript A3600
ExpiresByType text/css A3600
</Directory>
```

各ディレクティブについては、マニュアル「Hitachi Web Server」を参照してください。

！ 注意事項

次の場合、静的コンテンツが有効期限内の間は、移行前の古いファイルがキャッシュから利用されます。

- Collaboration を移行した場合
- Collaboration の移行後に障害などが発生して、移行前に戻した場合

このため、静的コンテンツの有効期限は、長過ぎないように、性能などを考慮して適切な値を設定してください。

2.Hitachi Web Server を再起動します。

(2) Groupmax Collaboration 07-20 以降からの移行

Groupmax Collaboration 07-20 以降から移行する場合に、Web サーバで設定する手順について説明します。

(a) 静的コンテンツを Web サーバから直接取得するための設定

HTML や画像ファイルなどの静的なコンテンツを、アプリケーションサーバを経由して取得するとレスポンスタイムが低下します。これを回避するには、次の手順で、静的コンテンツを Web サーバから直接取得するようにバイパスを設定してください。

手順

1. 静的コンテンツをコピーします。

xcopy コマンドを実行して、<Collaboration インストールディレクトリ>%deploy_work から静的コンテンツだけを抜き出し、<Collaboration インストールディレクトリ>%clb_home%public にコピーします。

コピーする静的コンテンツのファイルの拡張子は、[.gif]、[.png]、[.html]、[.htm]、[.js]、[.css] です。

Collaboration を d:%hitachi%collaboration にインストールした場合、次のようにコマンドを実行します (Collaboration をインストールしたディレクトリに合わせて、コマンドを変更して実行してください)。

```
xcopy d:%hitachi%collaboration%deploy_work%*.gif d:%hitachi%collaboration%clb_home
%public /S /Q /I /K /Y /R
xcopy d:%hitachi%collaboration%deploy_work%*.png d:%hitachi%collaboration%clb_home
%public /S /Q /I /K /Y /R
xcopy d:%hitachi%collaboration%deploy_work%*.html d:%hitachi%collaboration%clb_home
%public /S /Q /I /K /Y /R
xcopy d:%hitachi%collaboration%deploy_work%*.htm d:%hitachi%collaboration%clb_home
%public /S /Q /I /K /Y /R
xcopy d:%hitachi%collaboration%deploy_work%*.js d:%hitachi%collaboration%clb_home
%public /S /Q /I /K /Y /R
xcopy d:%hitachi%collaboration%deploy_work%*.css d:%hitachi%collaboration%clb_home
%public /S /Q /I /K /Y /R
```

なお、一度静的コンテンツをコピーしても、<PROJECT_HOME> (<Collaboration インストールディレクトリ>%deploy_work) の内容を変更した場合は、再度この手順を実行し変更された静的コンテンツを反映する必要があります。

(b) アクセス数の増加に対応するための設定

利用者のアクセス数が多いと、次のような問題が発生します。

- サーバスレッド数が少ないと、レスポンスが低下します。
- ログの出力量が増え、ディスク使用量が増加します。

これらの問題を回避するには、Web サーバで、サーバスレッド数のディレクティブや、ログに関するディレクティブの設定値を変更します。Cosminexus のインストールディレクトリが `d:hitachi` `hitachi` `cosminexus`、Web サーバが Hitachi Web Server の場合の設定例を次に示します。

手順

1. `httpsd.conf` で、次のディレクティブを設定します。

- `ThreadsPerChild` および `KeepAliveTimeout` ディレクティブ
`ThreadsPerChild` を 500, `KeepAliveTimeout` を 3 に設定します。この値は、アプリケーションサーバ 1 台あたり 500 人で利用した場合の推奨値です。アクセス数が多い場合や、利用人数が多い場合は、`KeepAliveTimeout` の値を「1」や「2」など小さい値に変更してください。
- `ErrorLog`, `LogFormat` および `CustomLog` ディレクティブ
アクセスログやエラーログをログファイルサイズで分割して、複数のファイルにラップアラウンドして出力するように設定します。
- `LoadModule`, `<Directory>`, `ExpiresActive` および `ExpiresByType` ディレクティブ
静的コンテンツに対して有効期限を設定します。静的コンテンツが有効期限内の場合、クライアントからの静的コンテンツに対するリクエストは、Web ブラウザのキャッシュを利用するようになり、Web サーバへのリクエスト数が減少します。

設定例

```
ThreadsPerChild 500
KeepAliveTimeout 3
ErrorLog "|%D:/Hitachi/Cosminexus/httpsd/sbin/rotatelogs2.exe D:/Hitachi/Cosminexus/
httpsd/logs/errorlog 102400 5%"
LogFormat "%h %l %u %t %T %r" "%s %b" common
CustomLog "|%D:/Hitachi/Cosminexus/httpsd/sbin/rotatelogs2.exe D:/Hitachi/Cosminexus/
httpsd/logs/access 51200 5%" common
LoadModule expires_module modules/mod_expires.so
<Directory "%D:/Hitachi/Collaboration/clb_home/public">
    ExpiresActive On
    ExpiresByType text/html A3600
    ExpiresByType image/gif A3600
    ExpiresByType image/png A3600
    ExpiresByType application/x-javascript A3600
    ExpiresByType text/css A3600
</Directory>
```

各ディレクティブについては、マニュアル「Hitachi Web Server」を参照してください。

! 注意事項

次の場合、静的コンテンツが有効期限内の間は、移行前の古いファイルがキャッシュから利用されます。

- Collaboration を移行した場合
- Collaboration の移行後に障害などが発生して、移行前に戻した場合

このため、静的コンテンツの有効期限は、長過ぎないように、性能などを考慮して適切な値を設定してください。

2. Hitachi Web Server を再起動します。

5.6 Web ブラウザでの表示確認

Collaboration システムにアクセスするために、Collaboration のクライアントは Web ブラウザを使用します。使用する Web ブラウザで URL を指定して、Collaboration のポータル画面が表示できることを確認します。この作業は、次に示すバージョンの製品を移行する場合に実施します。

対象製品

- Groupmax Collaboration 07-10 以降

ここでは、Web ブラウザの表示を確認するために指定する URL について説明します。URL を次に示します。

URL

`http://<ホスト名>/<コンテキストルート名>/index.jsp`

付録

付録 A Collaboration のコンポーネントで使用できる共通の機能

ここでは、Collaboration のコンポーネントで使用できる共通の機能について説明します。ここで説明している機能を使用する場合は、Collaboration のシステムを最新のバージョンに移行したあとに、機能を使用するための設定をしてください。なお、コンポーネント固有の機能の設定方法や使用方法については、各コンポーネントのシステム管理者ガイドまたはユーザーズガイドのマニュアルを参照してください。

Collaboration のコンポーネントで使用できる共通の機能を次の表に示します。

表 A-1 Collaboration のコンポーネントで使用できる共通の機能

項番	機能名	説明	サポートバージョン	設定方法の参照先
1	兼任機能	Collaboration のユーザが複数の組織や役職を兼任できるように設定できます。兼任機能を使用する場合は、兼任ユーザの情報の登録や、機能を使用するための設定が必要です。	Groupmax Collaboration 07-32	<ul style="list-style-type: none"> 導入ガイド
2	監査ログ出力機能	メールや電子会議室などの Collaboration の各コンポーネントから、利用者による各種操作の記録が監査ログとして出力されます。出力された監査ログを統一した形式に整形してファイルに出力できます。監査ログ出力機能を使用する場合は、機能を使用するための設定が必要です。	Groupmax Collaboration 07-50	<ul style="list-style-type: none"> 導入ガイド システム管理者ガイド
3	ドラッグ&ドロップ機能	Collaboration のポートレットとローカルとの間で、ファイルをドラッグ&ドロップの操作で添付したり、保存（ダウンロード）したりできます。ドラッグ&ドロップ機能を使用する場合は、機能を使用するための設定が必要です。	Groupmax Collaboration 07-70*	<ul style="list-style-type: none"> 導入ガイド ユーザーズガイド
4	ファイルのダウンロード画面を一つにまとめる機能	複数のファイルをクリックしても、[ファイルダウンロード] 画面、および [添付ファイルダウンロード] 画面を一つだけ表示するように設定できます。ファイルのダウンロード画面を一つにまとめる機能を使用する場合は、機能を使用するための設定が必要です。	Groupmax Collaboration 07-82	<ul style="list-style-type: none"> 導入ガイド

(凡例)

導入ガイド：マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を示します。

システム管理者ガイド：各コンポーネントのシステム管理者ガイドのマニュアルを示します。

ユーザーズガイド：マニュアル「Collaboration ユーザーズガイド」を示します。

注※

Groupmax Collaboration 07-83 以前でドラッグ&ドロップ機能を使用できるポートレットは、[メール] ポートレットだけです。Groupmax Collaboration 07-84 から、[電子掲示板] ポートレットでもドラッグ&ドロップ機能を使用できるようになりました。

付録 B Collaboration の製品と uCosminexus Portal Framework のバージョンの対応

ここでは、Collaboration の製品のバージョンと、Collaboration の前提製品である uCosminexus Portal Framework のバージョンの対応について説明します。

Collaboration の製品と uCosminexus Portal Framework のバージョンの対応を次の表に示します。

表 B-1 Collaboration の製品と uCosminexus Portal Framework のバージョンの対応

分類	Collaboration の製品のバージョン	uCosminexus Portal Framework のバージョン
Groupmax Collaboration	Groupmax Collaboration 07-10	Cosminexus Portal Framework 06-10
	Groupmax Collaboration 07-20	uCosminexus Portal Framework 06-11
	Groupmax Collaboration 07-30	uCosminexus Portal Framework 06-30
	Groupmax Collaboration 07-32	uCosminexus Portal Framework 07-10
	Groupmax Collaboration 07-35	uCosminexus Portal Framework 07-11
	Groupmax Collaboration 07-36	uCosminexus Portal Framework 07-50
	Groupmax Collaboration 07-50	uCosminexus Portal Framework 07-60
	Groupmax Collaboration 07-51	
	Groupmax Collaboration 07-52	
	Groupmax Collaboration 07-70	
	Groupmax Collaboration 07-71	uCosminexus Portal Framework 08-01
	Groupmax Collaboration 07-72	
	Groupmax Collaboration 07-82	uCosminexus Portal Framework 08-02
	Groupmax Collaboration 07-83	
	Groupmax Collaboration 07-84	uCosminexus Portal Framework 08-03
	Groupmax Collaboration 07-85	uCosminexus Portal Framework 08-70
	Groupmax Collaboration 07-86	
	Groupmax Collaboration 07-87	
	Groupmax Collaboration 07-91	uCosminexus Portal Framework 09-00

付録 C このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 C.1 関連マニュアル

Collaboration のマニュアル体系を次に示します。

- Collaboration がどのようなものか、イメージをつかみたいときに

Collaboration
ファーストステップガイド

- 機能概要や操作方法を知りたいときに

Collaboration
ユーザーズガイド

Collaboration -
Online Community Management
ユーザーズガイド

Collaboration -
Directory Access
ユーザーズガイド

Collaboration - Mail
ユーザーズガイド

Collaboration - Schedule
ユーザーズガイド

Collaboration - Forum
ユーザーズガイド

Collaboration -
File Sharing
ユーザーズガイド

Collaboration -
Bulletin board
ユーザーズガイド

- システムの構築や環境設定の方法を知りたいときに

Collaboration
導入ガイド

- システムの移行方法を知りたいときに

Collaboration
移行ガイド

- Collaboration Setup Navigation を使ったシステムの構築方法を知りたいときに

Collaboration
かんたんセットアップ
ガイド

Collaboration -
Online Community Management
システム管理者ガイド

Collaboration -
Directory Access
システム管理者ガイド

Collaboration - Mail
システム管理者ガイド

Collaboration - Schedule
システム管理者ガイド

Collaboration - Forum
システム管理者ガイド

Collaboration -
File Sharing
システム管理者ガイド

Collaboration -
File Sharing
メッセージ

Collaboration -
Bulletin board
システム管理者ガイド

(凡例)

■ : Collaboration 共通、または Collaboration 全体の情報を記載しているマニュアルを示します。

□ : Collaboration のコンポーネントごとの情報を記載しているマニュアルを示します。

Collaboration Portal の関連マニュアルを次に示します。また、Collaboration Portal の関連製品である Collaboration - Server, Collaboration - Data Server, Collaboration - File Server, Groupmax Groupware Server, Groupmax Agent - Application Version 6 について、それぞれのコンポーネントの製品名、マニュアル名称、および資料番号を次に示します。必要に応じてお読みください。

- Groupmax Collaboration Portal (P-2646-6364)
- Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing (P-2746-E364)

- Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule (P-2746-E464)
- Groupmax Collaboration - Server (P-2446-5X64)
- Groupmax Collaboration - Data Server (P-2446-5T64)
- Groupmax Collaboration - File Server (P-2446-5U64)
- Groupmax Agent - Application Version 6 (P-2446-7T44)

製品名	マニュアル名称	資料番号
Groupmax Agent - Document Manager Function Version 5	Groupmax Agent Version 5 エージェント作成ガイド	3020-3-A77
Groupmax Agent - Document Manager Server Version 5		
Groupmax Agent - Mail Function Version 6		
Groupmax Agent - Mail Server Version 6		
Groupmax Agent - Mail Web Option Version 6		

付録 C.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記	製品名
Collaboration または Groupmax Collaboration	<ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing • Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule
Cosminexus Portal Framework または uCosminexus Portal Framework	<ul style="list-style-type: none"> • Cosminexus Portal Framework - Light • uCosminexus Portal Framework

このマニュアルでは、Collaboration のコミュニティ管理機能を次のように表記しています。

表記	機能名
Collaboration - Online Community Management	次の製品のコミュニティ管理機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing • Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule

このマニュアルでは、Collaboration の電子会議室機能を次のように表記しています。

表記		機能名
Collaboration - Forum	Collaboration - Forum 01-10	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-10 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-10
	Collaboration - Forum 01-20	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-20 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-20
	Collaboration - Forum 01-30	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-30 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-30
	Collaboration - Forum 01-32	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-32 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-32
	Collaboration - Forum 01-35	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-35 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-35
	Collaboration - Forum 01-36	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-36 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-36
	Collaboration - Forum 01-50	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-50, 07-51, 07-52, 07-70 および 07-71 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-50, 07-52, 07-70 および 07-71
	Collaboration - Forum 01-81	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-72 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-72
	Collaboration - Forum 01-82	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-82 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-82
	Collaboration - Forum 01-83	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-83

表記		機能名
Collaboration - Forum	Collaboration - Forum 01-83	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-83
	Collaboration - Forum 01-84	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-84, 07-85, 07-86 および 07-87 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-84, 07-85, 07-86 および 07-87
	Collaboration - Forum 01-90	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91

このマニュアルでは、Collaboration の電子掲示板機能を次のように表記しています。

表記		機能名
Collaboration - Bulletin board	Collaboration - Bulletin board 01-10	次の製品の電子掲示板機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-10 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-10
	Collaboration - Bulletin board 01-20	次の製品の電子掲示板機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-20 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-20
	Collaboration - Bulletin board 01-30	次の製品の電子掲示板機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-30 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-30 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-30
	Collaboration - Bulletin board 01-32	次の製品の電子掲示板機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-32 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-32 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-32
	Collaboration - Bulletin board 01-35	次の製品の電子掲示板機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-35 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-35 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-35
	Collaboration - Bulletin board 01-36	次の製品の電子掲示板機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-36

表記		機能名
Collaboration - Bulletin board	Collaboration - Bulletin board 01-36	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-36 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-36
	Collaboration - Bulletin board 01-50	次の製品の電子掲示板機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-50, 07-51, 07-52, 07-70 および 07-71 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-50, 07-52, 07-70 および 07-71 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-50, 07-51, 07-52, 07-70 および 07-71
	Collaboration - Bulletin board 01-81	次の製品の電子掲示板機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-72 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-72 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-72
	Collaboration - Bulletin board 01-82	次の製品の電子掲示板機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-82 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-82 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-82
	Collaboration - Bulletin board 01-83	次の製品の電子掲示板機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-83 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-83 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-83
	Collaboration - Bulletin board 01-84	次の製品の電子掲示板機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-84, 07-85, 07-86 および 07-87 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-84, 07-85, 07-86 および 07-87 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-84, 07-85, 07-86 および 07-87
	Collaboration - Bulletin board 01-90	次の製品の電子掲示板機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91

このマニュアルでは、Collaboration のファイル共有機能を次のように表記しています。

表記		機能名
Collaboration - File Sharing	Collaboration - File Sharing 01-10	次の製品のファイル共有機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-10

表記		機能名
Collaboration - File Sharing	Collaboration - File Sharing 01-10	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-10
	Collaboration - File Sharing 01-20	次の製品のファイル共有機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-20 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-20
	Collaboration - File Sharing 01-30	次の製品のファイル共有機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-30 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-30
	Collaboration - File Sharing 01-32	次の製品のファイル共有機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-32 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-32
	Collaboration - File Sharing 01-35	次の製品のファイル共有機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-35 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-35
	Collaboration - File Sharing 01-36	次の製品のファイル共有機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-36 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-36
	Collaboration - File Sharing 01-50	次の製品のファイル共有機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-50 および 07-51 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-50
	Collaboration - File Sharing 01-52	次の製品のファイル共有機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-52 および 07-70 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-52 および 07-70
	Collaboration - File Sharing 01-70	次の製品のファイル共有機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-71 および 07-72 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-71 および 07-72
	Collaboration - File Sharing 01-82	次の製品のファイル共有機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-82, 07-83, 07-84 および 07-85 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-82, 07-83, 07-84 および 07-85
Collaboration - File Sharing 01-85	次の製品のファイル共有機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-86 および 07-87 	

表記		機能名
Collaboration - File Sharing	Collaboration - File Sharing 01-85	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-86 および 07-87
	Collaboration - File Sharing 01-90	次の製品のファイル共有機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91

このマニュアルでは、Collaboration のメール機能および宛先台帳機能を次のように表記しています。

表記		機能名
Collaboration - Mail	Collaboration - Mail 01-10	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-10
	Collaboration - Mail 01-20	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-20
	Collaboration - Mail 01-30	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-30 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-30
	Collaboration - Mail 01-32	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-32 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-32
	Collaboration - Mail 01-35	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-35 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-35
	Collaboration - Mail 01-36	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-36 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-36
	Collaboration - Mail 01-50	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-50, 07-51 および 07-52 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-50, 07-51 および 07-52
	Collaboration - Mail 01-70	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-70 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-70
	Collaboration - Mail 01-71	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-71 および 07-72 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-71 および 07-72
	Collaboration - Mail 01-82	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-82, 07-83, 07-84 および 07-85

表記		機能名
Collaboration - Mail	Collaboration - Mail 01-82	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-82, 07-83, 07-84 および 07-85
	Collaboration - Mail 01-85	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-86 および 07-87 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-86 および 07-87

付録 C.3 英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
BLOB	Binary Large Object
CLOB	Character Large Object
DB	Data Base
HTML	Hypertext Markup Language
HTTP	Hypertext Transfer Protocol
HTTPS	Hypertext Transfer Protocol Security
JIS	Japanese Industrial Standards
OS	Operating System
SSL	Secure Sockets Layer
URL	Uniform Resource Locator
UTF	UCS Transformation Format
WAR	Web ARchive
WOW64	Windows On Windows 64

付録 C.4 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ $1,024$ バイト, $1,024^2$ バイト, $1,024^3$ バイト, $1,024^4$ バイトです。

索引

C

Collaboration システムの移行の概要 1
Collaboration システムの概要 2
Collaboration システムの各サーバを構成する製品の移行 15
Collaboration システムの構成 2
Collaboration の製品 19
Collaboration の製品の種類 3
Collaboration - Bulletin board 01-10 からの移行 [データベースの移行] 40
Collaboration - Bulletin board 01-20 からの移行 [データベースの移行] 41
Collaboration - Bulletin board 01-30 からの移行 [データベースの移行] 43
Collaboration - Bulletin board 01-32 からの移行 [データベースの移行] 44
Collaboration - Bulletin board 01-35 または 01-36 からの移行 [データベースの移行] 45
Collaboration - Bulletin board 01-50, 01-81, または 01-82 からの移行 [データベースの移行] 46
Collaboration - Bulletin board 01-83, または 01-84 からの移行 [データベースの移行] 47
Collaboration - Bulletin board での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更 27
Collaboration - Bulletin board のデータベースの移行 40
Collaboration - File Sharing 01-10 からの移行 57
Collaboration - File Sharing 01-20 からの移行 58
Collaboration - File Sharing 01-30 からの移行 59
Collaboration - File Sharing 01-32 からの移行 60
Collaboration - File Sharing 01-35 または 01-36 からの移行 60
Collaboration - File Sharing 01-50, 01-52 または 01-70 からの移行 61
Collaboration - File Sharing 01-82 からの移行 61
Collaboration - File Sharing の移行 57
Collaboration - Forum 01-10 からの移行 [データベースの移行] 32
Collaboration - Forum 01-20 からの移行 [データベースの移行] 34
Collaboration - Forum 01-30 からの移行 [データベースの移行] 36
Collaboration - Forum 01-32 からの移行 [データベースの移行] 37

Collaboration - Forum 01-35 または 01-36 からの移行 [データベースの移行] 38
Collaboration - Forum 01-50, 01-81, または 01-82 からの移行 [データベースの移行] 39
Collaboration - Forum での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更 26
Collaboration - Forum のデータベースの移行 31
Collaboration - Mail 01-10 からの移行 [データベースの移行] 48
Collaboration - Mail 01-20 からの移行 [データベースの移行] 49
Collaboration - Mail 01-30 からの移行 [データベースの移行] 51
Collaboration - Mail 01-32 からの移行 [データベースの移行] 52
Collaboration - Mail 01-35 または 01-36 からの移行 [データベースの移行] 52
Collaboration - Mail 01-70, 01-71 または 01-82 からの移行 [データベースの移行] 53
Collaboration - Mail での RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更 27
Collaboration - Mail のデータベースの移行 48

G

Groupmax Collaboration 07-10 からの移行 [アプリケーションサーバの移行 (Web サーバの設定)] 74
Groupmax Collaboration 07-10 からの移行 [アプリケーションサーバの移行 (ポートレットの設定の変更)] 68
Groupmax Collaboration 07-20 以降からの移行 [アプリケーションサーバの移行 (Web サーバの設定)] 76
Groupmax Collaboration 07-20 からの移行 [アプリケーションサーバの移行 (ポートレットの設定の変更)] 69
Groupmax Collaboration 07-30 からの移行 [アプリケーションサーバの移行 (ポートレットの設定の変更)] 70
Groupmax Collaboration 07-32 以降からの移行 [アプリケーションサーバの移行 (ポートレットの設定の変更)] 71
Groupmax Collaboration Portal の移行作業の流れ 5

Groupmax Collaboration Web Client - Forum/
File Sharing の移行作業の流れ 6
Groupmax Collaboration Web Client - Mail/
Schedule の移行作業の流れ 7
Groupmax Collaboration の製品 [旧バージョン] 4
Groupmax サーバ 3
Groupmax サーバを構成する製品の移行 15

H

HiRDB/Run Time Version 9 20

R

RD エリアの拡張 [Collaboration - Bulletin board] 27
RD エリアの拡張 [Collaboration - Forum] 26
RD エリアの拡張 [Collaboration - Mail] 27
RD エリアの拡張およびインデクス情報の変更 26

U

uCosminexus Application Server Standard 18
uCosminexus Interschema - Parsing Kit 20
uCosminexus Portal Framework 18
uCosminexus Portal Framework の設定 [アプリケーションサーバの移行] 66
uCosminexus Portal Framework のデータベースの移行 29

W

Web サーバの設定 [アプリケーションサーバの移行] 74
Web ブラウザでの表示確認 [アプリケーションサーバの移行] 78

あ

アプリケーションサーバの移行 63
アプリケーションサーバを構成する製品の移行 17

い

移行作業の概要 8
移行作業の概要 [旧バージョンからの移行] 5
移行作業の参照先 [サーバごと] 3
移行作業の流れ 5
移行作業の流れ [Groupmax Collaboration Portal] 5
移行作業の流れ [Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing] 6
移行作業の流れ [Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule] 7

移行の概要 [Collaboration システム] 1
インデクス情報の変更 26
インデクス情報の変更 [Collaboration - Bulletin board] 27
インデクス情報の変更 [Collaboration - Forum] 26
インデクス情報の変更 [Collaboration - Mail] 27

う

運用ディレクトリの設定 21

か

概要 [Collaboration システム] 2
概要 [Collaboration システムの移行] 1
概要 [移行作業] 8
概要 [旧バージョンからの移行作業] 5
各サーバを構成する製品の移行 [Collaboration システム] 15

き

旧バージョンからの移行作業の概要 5
旧バージョンの Groupmax Collaboration の製品 4
旧バージョンの uCosminexus Portal Framework からの移行 [アプリケーションサーバの移行] 64

こ

構成 [Collaboration システム] 2

さ

サーバごとの移行作業の参照先 3
最上位組織の属性の削除 [ディレクトリサーバ] 21
作業項目と製品のバージョンとの対応 (前提となる環境の移行) 14
作業項目と製品のバージョンとの対応 (データベースサーバの移行) 24
作業項目と製品のバージョンとの対応 (ファイル共有の移行) 56

せ

製品のバージョンごとの実施する作業 9
前提となる環境で共通の設定 21
前提となる環境の移行 13

そ

属性の削除 [ディレクトリサーバでの最上位組織の属性] 21

て

- ディレクトリサーバでの最上位組織の属性の削除 21
- データベースサーバの移行 23
- データベースサーバを構成する製品の移行 17
- データベースの移行 29
- データベースの移行 [Collaboration - Bulletin board] 40
- データベースの移行 [Collaboration - Forum] 31
- データベースの移行 [Collaboration - Mail] 48
- データベースの移行 [uCosminexus Portal Framework] 29

は

- バージョンごとに実施する作業 9

ふ

- ファイル共有サーバを構成する製品の移行 17
- ファイル共有の移行 55

ほ

- ポータルプロジェクトの組み込み [アプリケーションサーバの移行] 73
- ポトレットの設定の変更 [アプリケーションサーバの移行] 68